

OB会設立30周年
村上ゼミ30周年 記念号

漕 魂

27号

2006年

長崎大学医学部漕艇部

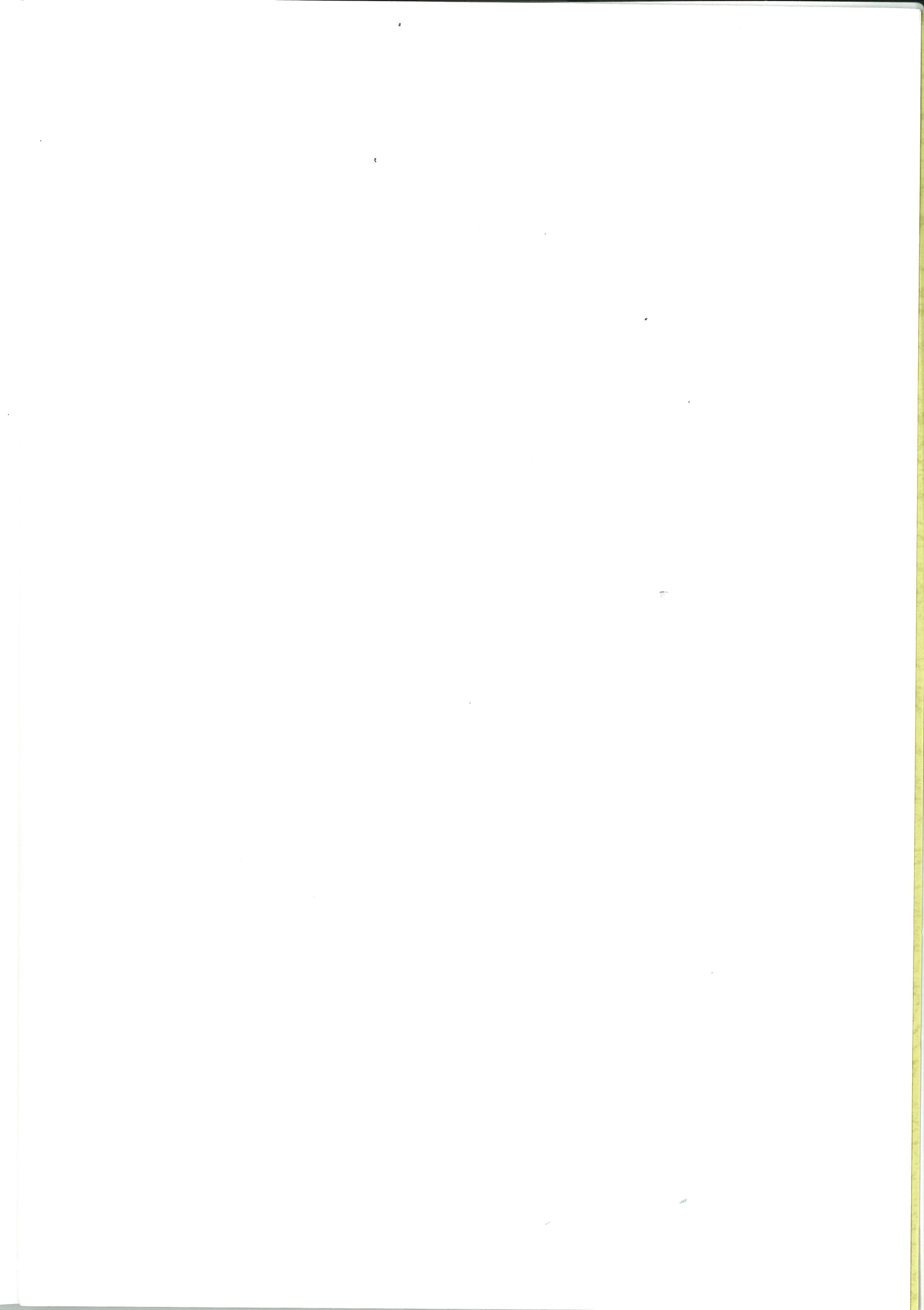


漕 魂

27号

2006年

長崎大学医学部漕艇部



卷頭言

我等が六歳を契る

絢爛の其の宴は実に過ぎ易し

然れども見ずや先達の嚆矢、

古りて猶燦然として輝き

我等が矜持、久遠に逸せざるを

友達よ、然に明日の運命を嘆かんよりは、

此の虞美露々丘に集いて、

去りては再び歸らざる

若き日の感激を謳わん。

漕魂の歌

作詞：今里雅之

作曲：岩谷伶

一、街を離れ ひたすらに

子々川の海へ 滑り出す

心地良い風 潮の薫り

キャッチロー キャッチロー

にじんだ汗が 流れだす

パドル行こう さあ行こう

二、水を切り 走る崎陽の

シュルルと放つ 快音は

朝もやの海に 似合っている

キャッチロー キャッチロー

心待つのは 安らぎの

オールメン イージーオール

オールメン イージーオール

三、スタート前の 緊張が

競り合う 気概と足蹴りに

ピッチを上げる コックスの声

キャッチロー キャッチロー

燃え尽きんと 漕ぎ続け

ああ喜びの トップゴール

琵琶湖周航の歌

作詞・作曲：小口太郎

我は海の子 さすらいの

旅にしあれば しみじみと

昇る狭霧や さざ波の

滋賀の都よ いざさらば

松が緑に 砂白き

雄松が里の 処女子は

赤い椿の 森陰に

はかない恋に 泣くとかや

波のまにまに 漂えば

赤い泊火 懐かしみ

行方定めぬ 波枕

今日は今津か 長浜か

瑠璃の花園 珊瑚の宮

古い伝えの 竹生島

仏の御手に 抱かれて

眠れ処女子 安らげく

目次

〈特集〉

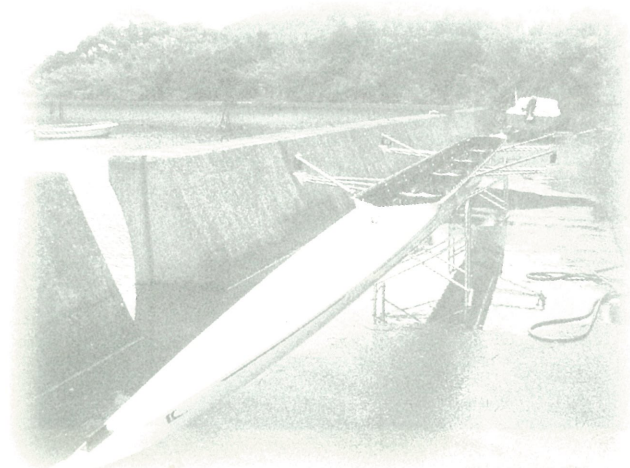
村上ゼミ30周年、及びOB会設立30周年式典報告……………	4
（会長挨拶） 村上文也……………	5
（総括） 福井雅士……………	7
（寄稿） 丹羽正美……………	12
田中精一……………	14
山近史郎……………	16
西日本医科体育大会主管報告……………	18
新艇「崎陽」購入について……………	19
新コーチ……………	20
新主将挨拶……………	21

〈活動報告〉

前年度主将挨拶……………	22
結果報告・コックス記……………	26
卒業生より……………	47
新入生紹介……………	50
部員雑感……………	52

〈OB会〉

長崎大学医学部漕艇部OB会収支報告……………	70
長崎大学医学部漕艇部OB会会則……………	71
長崎大学医学部漕艇部OB会会員名簿……………	72
〈ホームページ紹介、OBメンバーリングリストご案内〉……………	88
〈編集後記〉……………	89



長崎大学医学部漕艇部 OB 会発足 30 周年記念レセプション
及び村上医学ゼミ 30 周年記念謝恩会



西医体 於 形上湾漕艇場



九州朝日レガッタにて優勝したAクルー 於 遠賀川漕艇場



新艇 崎陽

10月1日(土)

長崎大学医学部漕艇部OB会発足30周年記念レセプション
及び村上医学ゼミ30周年記念謝恩会

於 長崎グランドホテル

式次第

1	集合写真	
2	開式の辞と連絡	福井雅士先生
3	ボート部OB会長挨拶	村上文也先生
4	村上ゼミ参加者代表挨拶	田中精一先生
5	記念品贈呈	井上健一郎先生
6	乾杯	冬野誠三先生
7	ボート部活動状況報告	丹羽正美先生、及び現役部員
8	挨拶	田川泰先生
9	挨拶	桜井一枝先生
10	挨拶	茅野丈二先生
11	挨拶	永山雄二先生
12	部歌斉唱	岩谷怜先生 伴奏
13	万歳三唱	裕本恵一郎先生
14	閉式の辞	福井雅士先生
15	二次会 7F「海門」にて	

10月2日(日)

子々川OBレガッタ
新艇「崎陽」進水式

於 子々川艇庫

進水式
レガッタ
表彰式
バーベキュー



開会の言葉

O.B.会会長 村上 文也

長大医学部漕艇部O.B.会結成三十周年記念パーティーの開会にあたり、ご挨拶を申し上げます。

皆様には遠路又多忙の中をご出席頂き、久し振りに多数のO.B.の方々が集まり賑賑しい会になりました。感激して居ります。

話は三十二年前に遡りますが、丹羽正美教授、田川泰教授、朝戸末男先生、椛本恵一良先生、冬野誠三先生らが医学部の二年生の時に熱研にいた私のところに来られまして、漕艇部を復活させたいと相談を受けました。旧制長崎中学時代海上運動会がありクラス対抗でエイトのオールを一寸握ったくらいで漕艇については素人の私は戸惑いでしたが、丹羽君らの熱意にうたれ動くことになりました。長崎市築町で開業して居られた宮城重信博士が、戦前長崎医科大学在学中ボートを漕いで居られたと聞き先ず先生のご意見をうかがうことにしました。先生は大正十四年長崎医科大卒業後、第二外科に入局されました。主任教授は古屋

野宏平先生です。原爆で校舎、病院は廃墟と化し職員、学生合せた九〇〇名以上の犠牲者を出した長崎医科大学は廃校に追いこまれる寸前でした。

宮城先生は学長になって居られた古屋野教授と共に文部省を説得され、伝統のある長崎医大の存続が決まったとうかがっています。豪放磊落な方で、私共のお願いを快く引き受けてくださりその場で後援会や寄付のことなど細かく手配して頂き、漕艇部の再出発が軌道に乗ることになりました。故に宮城博士に深く感謝しております。

それ以来三十年皆様の並々ならぬご努力で漕艇部は長大医学部運動部の中心的役割を果たすようになり、レースでも西医体、朝日レガッタに優勝するなど数々の実績をあげて参りました。その間、部長をして頂いた故、高久功名誉教授、尾崎正若名誉教授の熱心なご指導と氏家祐二コーチの心温まるアドバイスも忘れることが出来ません。

私が会長を仰せつかったから、いつかは漕艇部の部歌を作りたいというのが夢でした。私は旧制、佐賀高等学校時代、馬術部に入っていました。厳しい練習の合間に部歌を歌うことがいかに励みになるか感じていました。昭和六十三年（一九八八年）再開十周年に合わせて部歌をと考え、東京女子医大消化器外科にいた今里雅之君（昭和五十八年卒）に話しましたところ意欲的で六月に「漕魂の歌」という作品を完成させてくれました。作曲は意中の人であった長崎市在住の岩谷音楽事務所の岩谷怜さんにお願

いして名曲が出来上がりました。本日岩谷さんをゲストとしてお迎えして居ります。昭和六十三年十一月十二日このホテルで十周年記念パーティーを開催しましたが、その席上で今里君のタクト、岩谷さんの伴奏で部歌としてはじめて披露されました。傍らに居られた故、高久教授が「村上さん、念願がかなってよかったですね」と声をかけて頂いたのを懐かしく思い出します。

作詞をして頂いた今里君は幽明界を異にされ本日タクトをふる姿をみる事が出来ないのは残念でなりません。

私はご承知のような年齢になり、残された時間があまりありませんが、六十年に亘る医師生活の中で、二十年をO.B.会長としてつとめさせて頂いた事を本当に嬉しく思っています。又皆様がいろいろな分野で活躍されている姿を拝見してたのもしく思っています。

長大医学部漕艇部の今後の発展と皆様のご健康、ご多幸を祈ります。

本日は皆様本当に有難うございました。心からお礼申し上げます。ごゆっくりご歓談下さい。

尚先程、ご紹介しました作曲家の岩谷怜さんには後ほどピアノ伴奏をして頂いて皆様と声高々に部歌「漕魂の歌」を合唱したいと思しますので、ご協力ください。

(平成十七年十月一日)



◆30周年記念イベント総括◆

HUNGRY SPIRITS 流転編

平成四年卒 福井 雅士

この表題で文章を書くのは実に十五年ぶりのことです。先日の子ヶ川レガッタで子々川に行きましたが、これも十三年ぶりでした。他のOBの諸先生方もお感じになられたようですが、子ヶ川は非常に風光明媚な素晴らしい親水エリアであることを再認識（実は初めて認識）致しました。その水と風の感触がこの筆を執らせてくれた気がします。今回、ボート部OB会発足三十周年記念レセプション&村上ゼミ三十周年記念謝恩会と記念子ヶ川レガッタの幹事を担当させていただきましたが、丹羽先生、市川先生をはじめ諸先生方、後輩の学生諸君のご協力とご指導で無事に終了することができました。皆様大変ありがとうございました。懐かしいボート部生活を懐古しつつ皆様への感謝をこめて個人的な感想も含めてご報告致します。

今年（平成十七年二月）のOB総会でボート部OB会発足三十周年記念事業を行うことと、その幹事を私が担当することが決定し早速プランを練り始めました。（平成十六年のOB総会で何らかの記念事業をすることは決まってい

ました。）OB総会で決まっていたのは次の三点です。

- 一、西医体の支援
- 二、記念レセプションの開催
- 三、記念子ヶ川レガッタの開催

一、の西医体の支援は、仕事が忙しくて丹羽先生、市川先生にお任せ状態になってしまいました。私の専門の形成外科は夏休みに治療を希望される患者さんが多く、夏場がどうしても一年のうちで一番忙しくなります。仕事に忙殺されつつ、井上病院に入院していた笠原君をお見舞い（冷やかし）に行くことぐらいしかできませんでした。笠原君は三十八度の熱を出しながらも良く頑張ったものだ、と感心しました。

二、と三、の準備は、五月頃に第一報を郵送することから始まりました。第一報は期日、場所のご連絡だけに留めましたので、それでお返事が返って来なくても全く気にしていませんでした。しかし第二報を八月初旬に郵送し今度はお返事も頂けるよう手配していたにも拘らず全くと言っていいほどお返事が返って来ませんでした（九通のみ）。原因として井上病院の事務（OB会事務局）の名簿が古すぎることが判明し、学生君達が持っている名簿で再度ご案内を送りました。また村上ゼミの名簿作成を井上健一郎先生が担当されていましたが十分なものが見つからず、結局村上ゼミのOBの先生方には充分なご案内ができ

ずじまいでした。

最後は電話作戦で、OBの先生方の勤務先の病院に片っ端から電話をかけまくりました。ただ、お会いしたこともないような大先輩の先生の所にはかけにくく、どうしても私の学年の周辺に集中してしまいました。出席者の中で私の学年の前後の先生が多かった理由はそこにあります。手術中や夏休みでご不在の時もあつたりして数回にわたりしつこくトライし続けた先生も居らっしゃいます。田川病院の劉君には四度目の正直でようやく連絡をつける事ができました。もちろん出席してくれました。

式次第や学生君達の役割分担は、九月の末に丹羽先生と市川先生、幹部学生さん達との話し合いで決めました。当然アルコールも入りながらの話になり、話し合いそのものより、飲み会の方が目的のようになりましたが、若い学生君達と話すのは楽しく、丹羽先生が老けられない理由がこの辺にあるのでは、と実感しました。

お返事が無くても当然お出でになるだろうと樂觀していた尾崎正若先生に、ご連絡状が届いていないことが直前に判明し大騒ぎになりました。丹羽先生と善後策を協議しご自宅に直接お電話をお掛けしましたが、ご予約が折り合わずご出席ができませんでした。尾崎先生にはこの紙上をお借りして丹羽先生ともども陳謝申し上げたいと思います。

長崎大学医学部ポート部OB会発足30周年記念

レセプション&村上医学ゼミ30周年記念謝恩会

平成十七年十月一日(土曜日) 十九時〜

於 長崎グランドホテル

出席者 村上先生、岩谷先生他、OB三十七名、学生が二十八名で計六十七名

まず、全員で集合写真を撮影しましたが、この写真はいづれ先生方のお手元に届くと思います。現在学生君達の方で整理中です。



式の冒頭、丹羽先生のご提案で、亡くなられた高久先生と今里先生に全員で黙祷を捧げました。私も直接お会いしたことがある先生方だったこともあり、両先生のご冥福を心からお祈りいたしたいと思えます。

村上先生のご挨拶では、これまでのポート部とOB会の歩みについて興味深いお話があり、再建草創期のポート部に全

員が思いを馳せました。また村上先生からは出席者全員に記念品を頂き大変恐縮しております。村上先生にはOB会から記念の盾とメダルを贈らせていただきました。

OBの各先生方にもご挨拶をお願いし、それぞれ含蓄の深い、懐かしいお話を披露していただき、時には往時の暴露話も飛び出し、非常に和やかな楽しい会となりました。丹羽先生、田川先生のお話の中では再建されたボート部の初代部員の三十五年前の写真が映され、まさに嚆矢である先生方の凛々しいお姿と、今ではあまり見慣れない髪型に会場全体がどよめきました。その当時のユニフォームを寄付したいという田川先生のお申し出もあり、今後ボート部で大事に保管していくことになりそうです。

現役部員による現在の活動状況の報告は、液晶プロジェ



クターを使ったPCプレゼンテーションで、動画や写真も取り混ぜた臨場感溢れるものとなりました。OBの先生方もしばしスクリーンに釘付けという感じで、九州朝日レガッタの優勝シーンや西医体決勝シーンでは拍手が起きました。村田君、福島君、笠原君、長君はじめ学生君達の努力と丹羽先生のご指導に敬意を表します。

会は和やかに進み、最後に部歌「漕魂の歌」の作曲をされた岩谷怜先生のピアノ伴奏の下参加者全員で部歌を斉唱し、村上先生のご健勝と会員全員のいやさかを祈って万歳三唱をして会を終了しました。

二次会、三次会についても各先生方思い思いの場所で心行くまで長崎の夜を堪能されていたようでした。皆様お疲れ様でした。



長崎大学医学部ボート部OB会発足

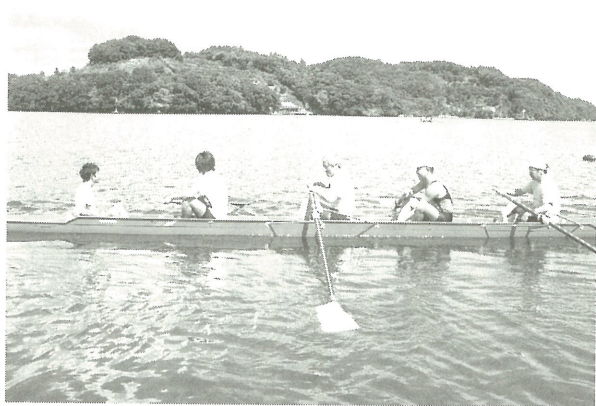
30周年記念子々川レガッタ

平成十七年十月二日（日曜日）

八時半医学部記念講堂集合

参加者 名簿が紛失して不明です。学生は全員参加。

前日の酔いも醒めやらぬ中、午前八時半に医学部記念講堂前に集合、子ヶ川に向かいました。子ヶ川は研修所の先が昔は行き止まりだった所が立派な漁港ができ、車を止める広大な駐車スペースもできていたのにびっくりしました。しかし研修所の前にたたずむ前島や遠くにかすむ鷹島、黒島、その先の長崎空港や大村の風景は昔と全く変わらず、



波も穏やかで、天気も良く本
当に風光明媚なところだなー
と再認識（初認識）しました。

九時半から新艇（練習用の
スタンコックス艇）の進水式
が先生方のご列席のもと厳か
に執り行われました。神主さ
んが祝詞を奏上され代表の先
生に玉ぐしを奉納していただ
きました。私はこうした形の
進水式を初めて見ました。

十時頃からシエルフォアを

学生君達に出してもらい、いよいよレガッタの開始です。
学生君達にお任せしたクルー編成も基本的には卒業年次順
でした。各クルーの先生方は久しぶりに海峡付近や更にそ
の奥でスタート練習などしながら子ヶ川の光と風と波を楽
しみました。レースのコースや距離をどうするか、事前に
議論になったところですが、学生君達のアドバイス通り、
子ヶ川の漁港の岸壁付近から前島の前を通って民家の前
あたりでゴールする約三〇〇メートルのコースを取りまし
た。第一レースも第二レースも若いOBが乗った船が勝利
し、やはり体力勝負になってしまったようです。末永先生
と谷川君が、現役時代そのままのシングルスカラーとして
の雄姿を披露されていました。現役部員からは転覆するん



じゃないか、と心配する声も上がっておりましたが……。二レース終了したところで時間が無くなって来ましたが、決勝戦は行わず、バーベキューをつつきながらの表彰式に移りました。お出でになられた全先生方に記念の金メダルを授与させていただきました。また幹事の権限で、松本先生がスピーチで触れられていた朝戸先生にも松本先生から送っていたことにしました。若手のOBからは、またやりたいとの声があつたようで、私としては幹事冥利に尽きるというものです。先生方、学生諸君、皆様ありがとうございました。おつかれさまでした。



近況

今年の六月から井上病院の形成外科に勤務させていたでいています。形成外科の初代医長であり立ち上げの仕事はかなりストレスフルですが、やりがいもあります。また麻酔標榜医も持つていることから、麻酔の管理にも少し手を出しています。麻酔の方の関係から七―八年前からベトナムでの医療援助に時々出かけています。学生時代にえらそうなことがばかり言っておりましたが、そのオトシマエを自分に対してつけるため今後この活動は続ける予定です。今の私の指針は学生時代と大差ありません。西医体で惨敗した時も、太郎さんをけしかけた時も、本気でいずれメコン川にボート部を作り、そのベトナムナショナルクルーの監督となつてオリンピックに出るのが夢です。また最近はずり椅子スポーツにも多少関わり、今度の北京パラリンピックにも関わられたら、と頑張って勉強しているところです。この拙い文章を読まれた先生方、学生諸君に、あーやっぱり福井は昔と変わらんやーと思っただけだったら幸いですし、今回の記念事業も真に成功であったと言えると思います。昔も今も私は HUNGRY SPIRITS です。

◆30周年ご寄稿◆

OB会30周年に寄せて

漕艇部顧問教官 丹羽 正美



三十年と一口でも、一九七五年に生まれた子が三十歳になるわけですから、とてつもなく長い歲月です。でも、幸いなことに八十四歳になられた村上文也先生は、大変ご健勝で会長職を三十年、三十年前と同じ村上医院で現役内科医として地域医療にご活躍です。三十年前、長崎大学の熱帯医学研究所内科の責任者（未だ完全講座ではなく、病院内の臨床科で助教授のポストでした）を辞されて、村上内科医院を始められてすぐ、OB会が創設されたのでした。三十年経って、OB会の会員は現在一三二名です。OB会発足は、また村上ゼミという大変素晴らしい勉強会を産みました。村上ゼミは、五、六年生の漕艇部の学生と有志が週一回村上内科に集まり、New England Journal of MedicineのCPCの輪読と先生の症例の勉強会（というより先生に教えを乞うた会）でした。詳しくまた別途、村上ゼミについては、稿を改める必要がありますが、一時の中断後、井上健一郎先生のご尽力で復活しました。村上先生、三十年前と同じくゼミ中一番のご勉強ぶりで、博学練達の先生、三十年前と少しも変わららず、井上先生他、四十代五代気鋭の臨床の先生方、等しく脱帽の由。私は私で、OB会村上ゼミ発足当時の村上先生の年齢になって改めて、当時の村上先生の医師としての卓越さが思い出され、秀才の誉れ高かった村上先生だったと今更ながら納得しているところです。

今、手元に三十年前の写真があります。一九七一年（昭

和四十六年)にボート部が再建され、その年の昭和四十六年八月、西医体漕艇部門に初参加したときの写真です。先日のOB会三十周年の式典に出させていただきました。熊本大学医学部漕艇部の主催で大分県日田の夜明けダム漕艇場、私たちの初陣。前に座っているのは、右から、三番を漕いだ田川 泰(昭和五十年卒)、峰 雅宣(四十九年)、田中精一(五十二年)、後列右から、富海五郎(五十年)、冬野誠三(四十八年)、丹羽(五十年)、内田隆寿(五十年)、朝戸末男(五十年)の各君です。セピア色に霞んだ写真ですが、それだけに万感胸に迫るものがあります。三十年という歳月を一気に超えて、当時の高揚感が昨日のことのように思い出されます。なんとか西医体に出場すること、ただただそれだけを目的に練習に励んだ毎日でした。結果は最下位、同じ初出場の和歌山医大にも敗れましたが、でも何故だか来年こそはと意気軒昂でした。もちろん、今のボート部のパワーとは比べ物になりませんが、いささかの礎であることには間違いありません。OB会三十周年を期に、まるで待っていたかのように何所からともなく出てきました。三十年、初心に帰って、また新たに再出発をとの神の配慮のように思えます。ボート部の学生君たちに、ますます元気なエールを送れるようにと、写真を前に誓いを新たにしています。



ポート、村上医学ゼミナール、 臨床医学そして私

昭和五十二年卒 田中 精一

疾病の診断を問診より始め、視診、触診、聴診、打診による理学的診察法を駆使して最終診断に辿りつく過程に臨床医学の醍醐味を感じる。

約三十年前、当時ポート部顧問教官で熱研内科を退官された村上文也先生を慕い、第一薬理学教室教授丹羽正美先生を中心にしたポート部員により村上医学ゼミナールが立ち上げられ今日まで至っている。平成十七年十月一日長崎グランドホテルで開催された村上ゼミ創立三十周年記念式典に参加し、ゼミ発足当時を思い出し感慨を深くした。

皆も座ったと思う村上医院の患者待合室で先生の診療終了をひとり待っていたとき、中から先生の声がかかった。診察中であつた呼吸器感染症患者の呼吸音を先生の聴診器をお借りして聴いた。『ぎゅーっ、ぎゅーっ』という典型的な胸膜摩擦音であつた。医学を学んでいることを体感し、今でも忘れられない音となつている。そして先輩医師、患者さんより学ぶこのような診断学修練がそれからもずっとずっと続くことになる。

数年後、村上先生のご助言もあり東京女子医大消化器病センター外科の医療練士制度という六年間の卒後臨床研修



課程を受けることになった。そこで私が東京で師事した小林誠一郎外科教授（故人、東京女子医大消化器病センター所長）とめぐりあつた。教授は触診の達人で、以後長年にわたり触診の妙技を習い覚えた。腹部触診にまつわるひとつのエピソードがある。腹部超音波検査の普及し始めたころの話である。肝硬変、胆嚢結石を併存した食道癌術後の患者さんで右側腹部痛の訴えがあつた。教授の触診所見は急性虫垂炎、腹膜炎であつたが、当時普及してきた超音波検査では胆嚢結石、急性胆のう炎の診断と分かれた。後者の術前診断で緊急開腹手術がなされた。虫垂は蜂窩織炎の状態で先端が穿孔し胆嚢近傍まで膿汁の貯留が認められた。結果として教授の触診所見が的をえていたわけである

が、超音波検査医師の強い主張に対して術前に教授が首を傾げられた姿を今も覚えている。理学的診断法は各種臨床検査法に比して客観性に欠けるともいわれるが修練を積んだレベルに達すると説得力を持ちこれに勝る診断技術はない、と思っている。

臨床検査が重視されがちである昨今の医療に、問診、視診を尽くし、患った者の背景にまで思いをいたしながら患者の胸に聴診器をあて腹部を温かい手で丁寧にやさしく触診することの重要性が今求められている。

先日、村上先生の論文1) 2)を読む機会があった。原発性甲状腺機能低下症の一例や劇症I型糖尿病の一例など開業後に経験された貴重な症例が報告されている。大学を離れても常に臨床医学から目を離すことなく、さらに比類のないエネルギーと愛情を患者に注がれている。論文の中で、『最近では高度先進医療が導入され、又EBM (evidenced based medicine) が普及されるようになったが、病気の診断には患者と医師との協同作業である narrative (言葉、対話、物語) が欠かせない。最近話題になっている NBM (narrative based medicine) による医療アプローチが、私共の症例でも診断の重要な決め手になったと考えている』と強調されている。私ども医師群ならびに医師への道を歩むものたちが忘れてはならない一言である。村上ゼミで我々がNEJM (New England Journal of Medicine) を興味深く勉強できたのは、村上先生という研究者であると同時に優れた臨床家が机上

のものとなりがちな医学を目の前の患者さんを通じて解説して頂いたからであると思っている。

ポートを漕ぎ、村上ゼミで大学とは少し異なる臨床医学を身近に感じながら過ごした学生生活が貴重な経験となっている私である。

文献

- 一．臨床医六十年の回想―印象に残った症例―(1) 長崎県医師会報 第七一六号 平成十七年九月
- 二．臨床医六十年の回想―印象に残った症例―(2) 長崎県医師会報 第七一七号 平成十七年十月

村上ゼミの思い出

昭和五十七年卒 山近 史郎

私は四年生の後期から村上ゼミに参加させて頂きました。一年上のポート部先輩として難波、谷川、前原、村山さん、他にバスケット部の高橋克郎さん、剣道部の成田さんがおられ、体育会系の雰囲気濃いメンバーでした。私の学年では当時一人でしたので、次年度よりやはり体育会系の同級生に声をかけ、バレー部の辻村徹君（長崎市民病院精神科）、バスケット部の森内良三君（細菌学教室助教）、小田純爾君（十善会病院整形外科）、伊崎明君（伊崎脳神経外科）、テニス部の井上祐一君（諫早総合病院内科）の計六人で参加しました。毎週金曜日の七時半から、約一時間半 New England Journal of Medicine の CPC を持ち回りの司会により進めました。私の担当した症例で今でも憶えているのは、遅発性ウイルス感染症である Creutzfeldt-Jakob 病いわゆるヤコブ病でした。今ではプリオン病の一種として狂牛病の原因として大変な話題になるとは予想だにせず、報道されるたびに当時の村上ゼミが懐かしく思い出されます。時には村上先生の特別講義もお願いし、マリアアの顕微鏡所見なども直接見せて頂いたりしました。

そして勉強会の後は、毎回隣室で懇親会があり、そこではいつも村上先生の奥様による手作りのご馳走が用意され

ていました。もちろんお酒も用意され村上先生を囲んで楽しく談話しました。勉強会だけでなくこの懇親会を楽しみにしているのは、すべてのゼミ生だったことだと思えます。特に下宿生にとっては、おふくろの味そのものだったことでしょう。当時奥様とお会いしたこともなく、ご馳走を頂く度にどんな奥様なのだろうか、きつと謙虚で優しい方なのだろうと思ったりしました。だいぶ後になって奥様とお会いしました時は、とても穏やかで優しい予想通りのお方だと感じました。村上先生はもちろんのこと、ここまで学生に良くしていただけの奥様がほかにいらっしゃるでしょうか。今、奥様は病氣療養中でいらっしゃいますが、一日も早くご回復されますことを心よりお祈り致しております。

現在、村上ゼミは復活し井上病院会議室で毎月一回水曜日に、村上先生を囲んで以前と同様に行われています。循環器専門バカになってきた私にとつて格好の勉強の場毎毎回楽しみに参加しています。今でも村上先生はきちんと英文を読んでこられ、常に的を射た解説を頂きます。ポートでそれまで日夜練習に明け暮れてきた現役引退の学生諸君も、驚くほど真面目に取り組んでいます。司会者の担当学生もしつかり準備してきており、さすがポート部だと感心しています。遠方のOBで参加したいと思っておられる先生方もきつと多いことでしょう。あれから四半世紀以上経た今でもこのゼミに学生とともに参加し、村上先生の教え

を受ける自分は本当に幸せ者だと実感しています。

村上先生、奥様、本当にありがとうございます。改めて心より御礼申し上げます。

いつまでもお元気でいらっしゃることを願ってやみません。



◆西日本医科体育大会主管報告◆

二〇〇五年度西医体の長崎大 主管を終えて

競技責任者 四年 福島 真典

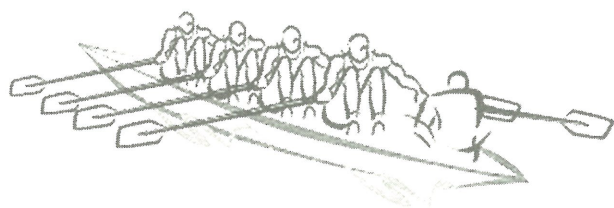
二〇〇五年八月四日～七日、長崎県形上湾ボートコースにおいて西医体を無事終えることができました。長崎県ボート協会、琴海町の関係者の方々をはじめ、OB会の先生方には多大なご協力をしていただきました。OB会の先生方には金銭面だけでなく、大会役員として、そして大会当日の応援、と力強くサポートしていただいたことで、今大会の成功を収められました。厚くお礼申し上げます。

今大会の主管を行い、いままでのボート選手として立場に加え、運営側の立場でのボート競技に触れ、広くボートというものを知ることが出来たと思います。

近年の試合を見ていまでも、試合中のコース侵害、接触などの技量不足による問題とともに、練習水域での行動や、発艇時刻に遅れるなどにより運営を妨げるといった問題が目立ちます。これらの問題は単にルールなどの知識不足だけでなく、マナーの欠如というものが考えられます。

今大会の運営に携わった部員たちは、ボート競技に対する知識とともに、多くの人によりボート競技が運営されていることを十分理解できたと思います。

今回の貴重な経験をもとに、実力とボートに対する真摯な態度を兼ね備えた漕艇部を作り上げてほしいと思います。そして他の学校の模範になるような部になることを期待します。



◆新艇「崎陽」購入について◆

平成十五年にエンパツハ社（ドイツ）のトップコックス艇を購入して今年で二シーズン目を終えました。前回の購入時には多数のOBの先生方にご尽力していただき誠にありがとうございました。

現在トップコックス艇は二艇あり対抗クルーとBクルーが使用しています。ほかの練習艇として九十四年購入の「雄図」と九十五年購入の「鴻図」と「崎陽」があります。しかし、「鴻図」と「崎陽」は腐食が激しく、二年前修理に向かう艇運び中にさらに破損してしまい、修復は不可能となってしまいました。

このような経緯から前回のシーズンは、全学ボート部からシエルフォア1艇を借り、トップコックス艇二艇と「雄図」の計四艇を使用していました。しかしながら、全学ボート部の部員も増加傾向にあり、来年からは全学ボート部からシエルフォアを借りることができなくなる可能性がでてきました。

さらにオフシーズンの乗艇では、部内の底上げを狙い、上の学年と下の学年とで構成する均等クルーで練習しておりますが、練習艇の不足から未熟な漕手のいるクルーでもトップコックス艇に乗せざるを得ないのが現状です。

以上のような状況を踏まえ、新しいシエルフォアの練習

艇（スタンコックス）の購入を検討していただきたいとOB総会でもお願いしたところ、OB会設立三十周年の節目の年に記念艇として、また金銭面でも西医体が長崎で行われるためそのための購入費用も工面できるであろうというところで購入して頂くことになりました。

名前のほうは、村上先生や丹羽先生に相談した結果、部歌にも登場する「崎陽」が廃艇になったまま部になかったため、三代目「崎陽」という名前にすることになりました。実際は、桑野の新型艇が当初の予算より割安の値段で購入でき、遠賀川で九州朝日レガッタの際に受け取りました。

さつそく、県漕や西医体では新人クルーの艇として活躍し、西医体では新人ではご無沙汰だった決勝への進出も果たしました。

三十周年記念レガッタの際に併せて進水式も執り行いました。

これからも大事に艇を使わせていただきたいと部員一同考えております。

今後ともよろしくお願いいたします。

◆コーチ就任ご挨拶◆

挨拶

はじめまして、長大医学部のコーチとして就任させていただきます。柏木俊樹と申します。

昨年は、世界選手権が日本で行われ、ボート競技への関心は年々高まっているように感じております。そんな中、何かのご縁で長大医学部のコーチとして指導させていただいております。

コーチとしての経験はございませんが、全力で指導するさせていただきます。

今後とも、先輩方のあたたかいご指導、ご協力を承れるよう、私たちは結果を残していきますので、何卒宜しくお願いいたします。

紹介

来年度からの長崎大学医学部漕艇部のコーチに柏木俊樹さんが就任されました。

村上先生の知人であつしやつたのをご縁に、突然のお願いにもかかわらず快く引き受けて下さりました。

柏木さんは静岡県立二俣高校でボートを始められ、高校二年生のとき、インターハイ四+(二番)準優勝、同年熊

本国体四+(S)優勝、エルゴ大会 q 十三—十七歳軽量級の部日本二位。高校三年生のとき、インターハイ四+(S)準優勝、同年富山国体四+(二番)優勝、エルゴ大会十三—十七歳軽量級の部日本二位。

その後明治大学商学部商学科に入学され、大学一年生のとき、インターハイ四—(三番)準優勝。

さらに大学二年生のとき、全日本選手権二—(B)準優勝、全日本軽量級二—(B)準優勝、インター二—(B)優勝。大学三年生のとき、全日本選手権四+↑□(B(三番)準優勝、全日本軽量級二—(S)準優勝、インター四—(三番)四位。

大学四年生のとき、全日本選手権四—(三番)優勝、全日本軽量級四—(三)四位、インター四—五位。

という輝かしい経歴の持ち主で、現役のときはその名を全国に知らしめた名ローヤーであります。

コーチ不在の日々が続き、現役部員に経験者もいなくなつてしまつたなか、まさに救世主といえる柏木さんのコーチ就任に、部は一層の盛り上がりを見せています。

長崎大学医学部漕艇部の発展の大きな力となられることを確信しております。

(文責 高橋)

◆新主将挨拶◆

三年 高橋 一臣

春浅くまだ風の冷たく感じられるこの頃、いかがお過ごしでしょうか？

さて、今年度も長崎大学医学部漕艇部の部誌を、こうしてOBの皆様の御手元にお届けすることができました。

長崎大学医学部漕艇部は今年まさに試練の年を迎えようとしています。というのも、来年度からの授業カリキュラム変更により五年次での臨床実習の開始が早まったため、今年は五・四年生が同時に部活を引退しました。さらには、これまで部をリードしてきたAクルーのメンバーが今年は今全員艇をおりることになり、新しいメンバーとの世代交代を強く感じます。このような厳しい状況の中、残された私たち現役部員が近年の強いボート部、強い長崎大学を守り続けていくには、先輩方が築き残してくださった教えを受け継ぐのはもちろんのこと、それに加え一人一人がどうしたら成長できるかを今まで以上に自らで考え、新しい試みに積極的に挑戦し、前向きな強い気持ちで日々の練習に取り組む必要があると思います。このような年に幹部として部を率いていくことに大きな責任とプレッシャー

を感じずにはいられませんが、同時に期待や緊張感でシーズンを前に気分が高揚してきているのも事実です。伝統ある長崎大学医学部漕艇部の名に恥じぬよう、常勝精神のもと、なりふりかまわず食欲に戦い、今年こそは西医体優勝の結果をご報告できるよう努力してまいります。そして□
↑ (B終わった際には、Aクルーのメンバーのみならず、部員全員が最高の笑顔で勝利の喜びを分かち合えたらと思います。

時代の流れとともに部のカラーは変わっていくものですが、ボートというスポーツを好きになり、楽しむ気持ちは今も昔も少しも変わっておりません。

長崎大学医学部漕艇部は私たちにかげがえのない経験、仲間達をあたえてくれる宝物だと思っています。今後もさらなる部の発展が続くよう部員一同努力してまいりますので、あたたかく見守っていただけたら幸いです。

最後になりましたが、皆様方のご健康とご多幸をお祈りして挨拶とさせていただきます。

活動報告

前年度活動報告

前年度主将 村田 慎一

我々が幹部となった際、その前の年が西医体で準優勝という結果であったので当然主管を務めることになった西医体での優勝を目標として練習をしていくこととした。まず、私たちが幹部として活動していく際に特に注意したことは、Aクルーでコックスをしている福島のボートに対する感覚を部員全体で共有できるようにすることである。彼は滋賀県の名門ボート部で国体出場を果たした猛者である。専属のコーチが現在いなく、周りに活動している団体がいない長崎の地において「強い長大」を目標としたとき、彼の経験こそが一番の近道であると考えたからである。また、カリキュラムの関係で我々が幹部が終わってから一度に二つの学年が抜けることになるため、後輩たちに行き先だけ先輩から経験やテクニクやモチベーションを学んでもらうように意識した。また、できるだけ私の目から見た今シーズンのボート部についてできるだけ書こうと思う。これが今後活動していく後輩が今後につなげていってもらえれば幸いである。OBの先生方には少々わかりづ

らく、退屈なものかと思いますがご容赦いただきたいと思います。

「オフシーズン（二〇〇四年十月～二〇〇四年十二月）」

この時期は部員全体のテクニク、およびボートに対するモチベーションの向上を第一目標としてトレーニングに励んだ。その背景として、西医体でAクルー以外がレーン侵害で失格という結果に終わったこと、および例年この時期は目の前に大きな大会がなくハードなトレーニングをするため、部員の士気が下がってしまうように思われたからである。そこで四校戦まではAクルー経験者（西山先輩、茅田先輩、福島、笠原、村田）を各クルーに振り分けAクルーの経験、テクニクを伝えていけるように意識してクルーを編成し、また、夕方のトレーニングについても例年に比べ練習量は減らしたが、Aクルーの練習がどんなものか理解してもらい、部内で意識の差がないように配慮した。

「オフシーズン（二〇〇五年一月～二〇〇五年二月）」

一月の末に行われるエルゴ大会を目標として、体力の向上を狙ったトレーニングを行った。普段の筋トレでは部分的な筋肉のみを鍛えることになっていたので、怪我をしないためには全身の包括的な筋力をつけることが必要と考え、福島の案で練習に縄跳びを取り入れるなどして、加えて飽きがこないようにメニューを組んだ。

くオフシーズンを通して」

まず新幹部としての動き出しが遅かったために長期的な目標・計画を立てることができないまま練習に入ったことである。

そして、できるだけ部員全員に上記のような練習の目的を伝えていたつもりではあるが、それが不十分であったために、Aクルー経験者とそうでないもの間に溝があったということ。私などは「Aクルーに乗らなきゃわからないところがある」と言い訳してAクルー経験者の経験を十分には伝えられなかった節があったように思われて悔やまれる。

また、部員のバイトなどの都合などを配慮するといった点でストレスとなったのも事実である。ボート部にしろなんにしろ、集団とは個性や自分なりの主張をもった人間の集まりである。その個性が集まった中で同じ意識を持つことは無理かもしれないが、如何に近い意識を共有できるようにするかが、集団をまとめ、より高い目標へ進むためには重要であると感じた。

「シーズン（〜丸山）」

今シーズンのAクルーは、C福島、S西山、3浜口、2古賀、B村田というメンバーで望んだ。このメンバーは五年生で実習がきつい西山先輩や、二年生で解剖があるため通常は乗せることがない浜口、古賀に例外的にお願いして

乗ってもらったこととなった。このようなクルー編成にすることで来年以降も絶えることなく経験と強いボート部を維持できるのではないかと考えた。

そしてBクルーは昨シーズンのBクルーに乗った三年生を骨格として、新しく二年生が加わる形となった。そしてCクルーは丸山後に新入生を教育していくことが大きな課題となるため、三年間Aクルーに乗ってこられた茅田先輩をコックスとして、十分に経験をつんでもらうことを目標にクルーを編成した。そして大場先輩がスカルとして丸山に望む。

ここでAクルーが直面した課題は、ミドルペアの二年生がボートをこれまでに漕いできた絶対的な時間が短いことである。昨シーズンまでAクルーを漕いできた者が求めるものは彼らに重くのしかかり、さらに練習をきついものにしていったと思う。また、Aクルーの週七の乗艇やそれに加え陸上でのトレーニングも解剖中の彼らを苦しめたと思う。しかし勝つことを第一の目標としているAクルーで妥協をすることもできず、彼らはつらい思いをしたと思う。結局このようなネガティブなイメージのまま丸山を向かえ、優勝を逃し準優勝に終わった。

これに対しBクルーは紆余曲折ありながらも三年生を中心としてまとめ、オープン戦で優勝した。Cクルーについても勧誘においても、小松を中心として五名もの新入生が入部してくれた。Aクルーに乗って、十分に勧誘でき

ない立場にいる自分としてはホツとした。

「九朝」

九山後もAクルーは精神状態を反映してか、力の出力を艇速として表現できない。そしてついにボートに対する考えの不一致から古賀が降り、代わりに笠原が乗ることとなった。九朝の二週間前のことである。しかしAクルーの雰囲気は激変した。笠原の持つおおらかさと身体能力で、開き直ってできることをしようという雰囲気が生まれた。結果、優勝という結果を残すことができた。確かに今シーズンでこれまでで最高の漕ぎができた。けど意味がわからない。何がなんだかわからない。自分が何に悩んでいたかもわからなくなった。ただただ笠原さんに感謝です。これほどに彼が本番に強い人間だとは思いませんでした。

また、今回の九朝ではほかのクルーも優秀な成績を残してくれた。例年二日目に残るのは一クルーくらいなのだが、今年はすべてのクルーが二日目の準決勝に残った。九山から徐々に自分たちのスタイルができたBクルーはじめ、新入生たちも優秀な成績を残してくれた。このあたりから部がひとつになって動き出したようにキャプテンは勝手に思っている……。

「県漕」

九朝の後でまず特筆すべきことは、Bクルーの存在であ

る。あるOBの先生が「強いAクルーの裏に強いBクルーの存在がある」とおっしゃっていたが、まさしくそのとおりだと思う。実際、二艇で並べても例年のような差はつかず、常にAクルーも強い練習相手がいることで高いモチベーションで練習していくことができた。Bクルーの中心となった三年生は昨シーズンに夏田先輩の元で非常に高いものを求められて練習してきた。それを彼らが自分なりの考えの下で消化し、それをAクルーを追い詰めるという形で表現したのだと思う。

この時期のAクルー（わたし）はBクルーにびびりながら練習していた。並べても一艇身つくことはあまりなく、ときには出られていることもあったと思う。そんな中であることもあって、高いモチベーションで練習することができたと思う。また、BクルーもAクルーに勝つことを目標に練習してきていたのではないかと思う。

「西医体」

県漕が終わって、Aクルーは整調と二番を入れ替えるマイナーチェンジをした。笠原の試合の馬鹿力を期待してのことだった。このくらいからライパが安定してかなり速くなったと思う。しかし、このスピードをパドルのときのリズムになかなか結び付けていくことができない時期が続く。

しかし大会までには、確実にははまらないが、はまっ

て一〇〇〇m漕げるだけのパフォーマンスができるようになったと思う。大会直前のテスト期間中、二週間ほどの間に少しそのはまる確率が落ち、若干不安定な状態ではあったが、十分に優勝を狙える位置につけていたと思う。

こうして大会をむかえる。主管業務におわれ、笠原の体調がすぐれないというアクシデントもあった。なんとか決勝までこぎつけた。決勝ではそのとき出来る最大限の力はクルー全員が出したと思う。だがどうにもピッチが上がらずに結果は三位。

優勝を狙える位置にありながら結果を出せなかったことについて、苦しみながら練習してここまでの流れを作った頂いた先輩方に本当に申し訳なかった。体調管理などわたしがもつと促せる部分があったのではないか。そのあといろいろ悩んだが、勝負に対する考え方が我々が甘かったのかなと考える。

今回の西医体では主管という大きな業務があった。毎日朝早くから会場に向かい、最後まで残り、子々川の合宿所に帰り次の日のミーティングという生活の中で、みんなよくがんばってこれだけの成績を残してくれたと思う。Bクルーは順位決定戦二位(総合八位)。Cクルーは新人で五位。Dクルー、シングルスカルの古賀は、準決勝進出などそれぞれ悔しい思いをしたかもしれないが、それが今後につながるのであれば財産である。結果が問われるAクルーにおいて結果が残せなかったことは悔やまれる。

「総括」

今シーズンまずまずの成績を残すことができたのは、部員に恵まれたからであることはいうまでもない。しかしその影には、それこそ血のにじむような努力をされてきたにも関わらず、怪我などに悩ませられくやしい思いをされてきた先輩方の存在を忘れてはならない。そんな先輩方が造ってきた大きな流れがあるからこそ今の我々は結果を残すことができたのである。また、西医体の主管というこれほどなく結果を残すべき立場にありながら、またそれを十分に狙える状況にありながら、優勝という結果を残せなかったことに私は本当に申し訳なく思う。

しかし、Bクルーや一年生の新人クルー、シングルスカルと例年以上の成績を残してくれたと思う。これは来年を視野にいれたクルー編成をできたこと、部員のモチベーションを高く維持できたことが大きかったように思う。少なくとも次のクルーは例年以上に元気はいいと思うのがんばってほしい。

最後にいつも応援して頂いているOBの先生方に感謝したいと思います。また、理不尽なキレ方をしたり、ひどいことを言ったりしたのに付いてきてくれた部員みんなや、そんな僕を支えてくれた幹部と一緒にした同級生に感謝したいと思います。

◇二〇〇五年度試合結果報告◇



オープン戦優勝したBクルー

第四三回九州・山口

医科学生体育大会

二〇〇四年四月十七日

宮崎県新富漕艇場にて

予選B

2 雄図

四分〇六秒一三 二位 決勝へ

3 早良 (福岡大)

四分二〇秒三二 三位

4 不死鳥 (宮崎大)

四分五九秒七九 四位

5 浮立 (佐賀大)

四分〇〇秒五五 一位 決勝へ

決勝

2 浮立 (佐賀大)

三分五二秒九七 三位

3 魁翔 (佐賀大)

三分五〇秒〇四 二位

4 雄図

四分〇〇秒五六 四位

5 白虎 (熊本大)

四分〇二秒七五 五位

6 蓋世

三分四三秒二二 一位

結果

蓋世 優勝

雄図 四位

1×

4 廣田 (産業医科大)

四分〇一秒六二 一位

5 大場

四分〇四秒三一 二位

結果

大場 準優勝

オープン4+

予選A

2 天照 (宮崎大)

四分五一秒九八 四位

3 魁翔 (佐賀大)

三分五五秒八九 二位 決勝へ

4 篠山 (久留米大)

五分〇三秒九九 五位

5 蓋世

三分五一秒〇五 一位 決勝へ

6 白虎 (熊本大)

四分一五秒三四 三位 決勝へ

対校戦

1	煌牙 (産業医科大)	三分四三秒四〇	五位
2	龍神 (熊本大)	三分三七秒四四	三位
3	魁偉 (佐賀大)	三分三四秒五六	一位
4	日向Ⅲ (宮崎大)	三分四一秒〇一	四位
5	玄海 (福岡大)	—	除外
6	鵬翼	三分三五秒二五	二位

結果

鵬翼 準優勝

総合準優勝

COX記

Aクルー (福島 西山 浜口 古賀 村田)

去年のメンバーから二人代わり、二年生の古賀と濱口がAクルーとして漕ぐこととなった。あと二人のローヤーは四年村田と五年西山という事で、二年生の漕ぎの未熟さが目立つシーズンスタートではあったが、九山にむけての短期間ではあったが、二年生はなかなかの成長ぶりを見せてくれた。

スタート直後から佐賀とともに一位争いをしたが、ス

パートからコンスタントで落ち着けずロスが多い漕ぎになり佐賀を離せず五〇〇mをすぎた。その後も前半の体力は使うが、艇速が伸びない漕ぎのせいで、体力のなくなった後半、鈍りはじめ、佐賀に抜けられ二位でゴール。

試合慣れしていなく、艇が横に並んだときの慌て様が敗因になったと思われる。

Bクルー (長 江頭 梅田 友延 高橋)

予選A

スタートがバタバタでローイングの五本目からやつとあい始めた。スタートローイングが終わったときに、佐賀と一艇身差、熊大と一・五艇身差がついていた。そのときのピッチが大体三四であった。そしてパドルを三〇〇m位までやって、佐賀に一・五艇身、熊大に二艇身くらいの差をつけたので、それから徐々にピッチを落としていき、六〇〇mの地点でその差のまま、ピッチ二四。クルーに足でストレッチャーを押すことを意識させながら、漕いでもらって、九〇〇mでその差のままをキープして、ピッチ二三であった。それから、パドルが全然仕上がってなかった。パドルの練習をしたほうがいいという声が聞こえたので、きざみからパドルの一〇本くらい入れてフィニッシュした。しかしパドルに入っても、特に佐賀を離すことはできなかつたので、相当クルーは凹んでいた。

決勝

スタートローイングでトップに出て、二〇〇mの時には、佐賀の魁翔に半艇身から三ノ四艇身差つけていた。しかしスタートからの三〇〇mで整調がとてきつそうな状況になった。スタートローイングがピッチ三七、コンスタントに入ってからピッチ三四と、普段より高めのピッチで漕いでいた。五〇〇m地点で魁翔に大体一艇身からそれ以上の差がついていたので、勝負をかけるつもりで足蹴りを入れた。しかしその途端にミスローイングが続発して、つめられる結果になった。何とか立て直して七〇〇mで二枚上げを入れ、九〇〇mでスパートをかけた。二枚あげを入れた時点でピッチが三一くらいであった。何とか、勝てたことは勝てたが、試合に臨むには、クルーのコンディションを整えるのが何よりも大切だと思った。

Cクルー

予選は順当に勝ちあがり、決勝へ。決勝は、スタート・スパート後にはBクルーが飛び出しそれを佐賀の二艇が追う展開、その後コンスタントでじわじわと、そしてこちらがミスローをするたびに確実に離されていく。最後のスパートでなんとか四位でゴール。

五年目にして初のCOXシーズン。その第一弾の試合だった。また九山のCクルーはその後教育クルーとして解散となるので少しでも良い結果を、少しでも各ローヤーの

スキルアップをと思つて望んだが、試合までの限られた練習の中で四人のローヤーをクルーとしてまとめる事はなかなか難しく、また試合においてのクルーのコントロールにおいてはなおさらだったとを感じる。ローヤーの四人はこんなのCOXのもとよく頑張つて漕いでくれたと思う。願わくは彼らの心にトラウマが残っていませんように、次に乗るであろう教育クルーで負の連鎖が起きませんように……

第五一回九州朝日レガッタ

一般シエルフォア

Aクルー 鵬翼(福島 西山 濱口 笠原 村田)
Bクルー 蓋世(長 江頭 梅田 友延 高橋)

予選A組

1 九州工業大学 四分一九秒六〇 六位
2 日向Ⅲ(高橋大学医学部) 三分五〇秒四七 五位
3 大和(山口大学) 三分四四秒六九 三位
4 雷光(佐賀大学医学部) 三分四〇秒九一 二位
5 鵬翼 三分三八秒三八 一位
6 周防(山口大学) 三分四九秒六七 四位

予選B組

2 九州大学 三分四三秒八三 二位
3 蓋世 三分四五秒一二 三位
4 羅漢(山口大学) 三分四一秒三四 一位
5 魁偉(佐賀大学医学部) 四分一四秒九一 五位
6 煌牙(産業大学医学部) 三分四九秒七一 四位

準決勝A組

3 大和(山口大学) 三分四二秒七九 二位 決勝進出
4 鵬翼 三分三九秒五六 一位 決勝進出
5 九州大学 三分五〇秒六三 四位
6 日向Ⅲ(高橋大学医学部) 三分四八秒五七 三位 決勝進出

準決勝B組

3 蓋世 三分五〇秒一六 四位
4 雷光(佐賀大学医学部) 三分四一秒六二 二位 決勝進出
5 羅漢(山口大学) 三分四五秒七八 三位 決勝進出
6 周防(山口大学) 三分四〇秒八八 一位 決勝進出

決勝

1 雷光(佐賀大学医学部) 三分五一秒五三 四位
2 周防(山口大学) 三分五〇秒六九 三位
3 大和(山口大学) 三分五三秒〇一 五位
4 鵬翼 三分四三秒〇二 一位 優勝
5 羅漢(山口大学) 三分五〇秒三八 二位
6 日向Ⅲ(高橋大学医学部) 三分五三秒六九 六位

COX記

Aクルー

四年の笠原がフォアに復帰し、古賀とチェンジして臨んだ。

予選

大会の一発目は緊張するもので、この試合で大会の成績はおおよそ予想がつくものです。

スタート後、船の傾きでいまいちではあつたが、他の艇より半分ぐらい出ていたので、スパートでさらに引き離す。コンスタントであわてないようじっくり漕いで練習がてらラストにスパート入れて一位でゴール。あわてずに漕げたようだが、水のつかみがちよつとあまいので、反省して二日目に向かう。

準決勝

二日目の午前中。一日目と違い荒れ気味の遠賀川。四の三上がりなので無駄に体力を使わないよう、一本を効率よくきつちり押す方向で統一して試合に臨む。

いつものごとくスタート以降一位になり様子を見ながらゴール。どの艇も仕掛けてくる様子がなく、ピッチをおとしたライトパドルのような淡々としたレースだった。試合中かなり荒れていて波の中をかき分けてすすむため、トックソックスの目の前には波の壁が出来、ずぶぬれになった。

決勝

正午あたりに予定されていたが波が高く、試合は一時中断。中止の可能性もあつたが二時間ほど待たされた後、フォアの試合のみ行われることとなった。

長い間待たされ、集中力も途切れ、冷えきつた体でイライラしていた。そこで応援に来てくださっていた冬野さんのご家族に温かい飲食物の差し入れを頂き、心底生き返った(冬野さんのご家族には毎度毎度サポートしていただき、本当に感謝しています。)

いうまでもなく遠賀川は荒れ模様。しかし、準決のようなのんびりした試合にはしなくなつたので、準決のような漕ぎに加え、リカバリーでの重心移動のスムーズな統一をはかつて、波にオールを取られない、軽やかなフォワードを目指した。

スタート後やはり半艇身ほど出て、スパート入れると静水の時と代わらない位回転が上がりあつという間に二艇身程突き放した。去年は後半で追い抜かれたので警戒していたが、他の艇はフォワードが重たく伸びそうになかつた。五〇〇m過ぎには独走状態で、二位以降に七秒以上差を付けゴール。久しぶりに大きな大会でぶつちぎりに勝てて、気持ちよかつた。念願の九朝優勝であつた。

Bクルー

予選B

スタートローイングで、羅漢（山口B）、疾風（九大A）に半艇身差をつけることができた。スタートレートが四〇・五、ローイングが三六。ただローイングに関してはほとんど一本一本で伸ばすという感覚ではなかった。むしろ試合直前のスタ練の方がだいぶよかった。こんなローイングながらも、試合ではスタートで出ようとクルーの意識を合わせていたので四〇秒くらいまで、三五位のレートで漕いで、四〇〇mで二位の羅漢に四分の三艇身から一艇身差をつけていた。五〇〇mで羅漢に半艇身くらいまで迫られたので、足蹴りを入れた途端、崩れた。それで七〇〇mで羅漢に並ばれることになる。この時、疾風にも四分の一艇身と迫られていた。ここで、スパートの二枚あげを入れたが、ここでも二枚上げの入りで崩れて、あっさり疾風に抜かれてしまう。勝負所でテンパって崩れるのは試合慣れしていないからだろうか。最後、九〇〇mでレートを二九から三一に上げたが、このレートではスパートとはいえない。クルーも不完全燃焼で終わった感があつた。結局三位で終わる。

準決勝B

一時中断になった後のコンディションだったので、やはり荒れていた。

そんな中で始まり、スタートのレートが三五、ローイングのレートが三三であつた。ただ、スタートの切れ込みで、

ローイングで伸びずに、隣の雷光（佐賀A）に徐々に離される展開になつた。終始皆のストロークがあわずに、バタつくことになる。三〇〇mで雷光に二分の一艇身差となり、そこから足蹴りを入れるも皆のストロークがかみ合わないどころか、切れ込みまであつて、雷光に喰らいつくどころか、羅漢（山口B）や、周防（山口C）にも刺されて、五〇〇mでもう雷光に二艇身弱、他の二艇とも二分の一艇身から、一艇身ついていた。ここでも足蹴りを入れたのだが、やはりお約束の切れ込みでグイッと他の三艇に大きく離され、クルーも度重なる切れ込みにレートも二七と、もはやパドルなのかというテンションになつてしまつていた。で、そのまま四位でゴール。いいとこなつた。結局、ラフコンということもあるのだが、競る展開に弱いというのと、最後まで集中してパドルを漕ぎきるといふ姿勢が欠けていたように思う。最悪切れ込んだとしてもそこから立て直せるクルーにしていきたいと思う。

一般ナツクルフオア

Cクルー 雄図(松岡 大場 三反田 中原 日野)
Dクルー 普賢(山本 長 上木 大橋 古賀)

予選A組

- 1 篠山(久留米大学医学部) 測定不能 六位
- 2 三菱マテリアル 測定不能 二位 準決勝進出
- 3 桃太郎(産業医科大学) 測定不能 一位 準決勝進出
- 4 普賢 測定不能 三位 準決勝進出
- 5 うぬ?(佐賀大学医学部) 測定不能 五位
- 6 はいてん二〇〇〇(HI二〇〇〇) 測定不能 四位
- 7 ちんすこう(佐賀大学医学部) 測定不能 七位

予選D組

- 1 恵比寿丸(舊医学部) 一分五七秒六四 一位 準決勝進出
- 2 福岡教育大学 二分〇二秒五三 二位 準決勝進出
- 3 英駿(産業医科大学) 二分〇七秒四四 四位
- 4 Reto☆銃弾(舊医学部) 二分四三秒六八 五位
- 5 雄図 二分〇三秒三七 三位 準決勝進出
- 6 名湿(佐賀大学医学部) 二分四八秒七六 六位

準決勝A組

- 1 チー会キリマンジャロ(舊医学部) 二分二四秒六五 六位
- 2 福岡教育大学 二分〇二秒〇四 三位
- 3 桃太郎(産業医科大学) 一分五七秒三〇 二位 決勝進出
- 4 河内ローイングクラブ 一分五三秒八六 一位 決勝進出
- 5 普賢 二分〇五秒八七 四位
- 6 新菱B 二分二四秒一三 五位

準決勝C組

- 1 篠山(久留米大学医学部) 二分〇三秒六二 四位
- 2 雄図 二分〇一秒〇五 三位
- 3 恵比寿丸(舊大学医学部) 一分五二秒七五 一位 決勝進出
- 4 唐津市役所 一分五四秒二一 二位 決勝進出
- 5 ボくとクラブ 二分一二秒五七 五位
- 6 東京海上日動あんしん生命 二分一七秒六三 六位

COX記

Cクルー

予選

私は、茅田さんの代行として初めて実際の試合にCOXとして出場した。だから、まずはレース中に大きなミスをしたくないように心がけた。具体的にはレーン侵害などなど。一応、去年西医体後に何回かCOXをしていたので、ある程度は要領はわかっていたが、実際スタート位置に艇をつける、まっすぐ艇をすすめるのが難しいと思った。一年生はスタートを練習していなかったもので、ノーワークスタートでその後ライパに移って、展開次第で二枚あげを入れていく事になっていた。レース展開としては、スタートで恵比寿丸、福教大、長医の順ででて、そのままの感じでゴールした。残り二〇〇をきったところで、横の四番艇（ヨヨヨ銃弾）が伸びてくるのを恐れて二枚あげを入れた。一年生は乗艇してわずか一週間だったため、どうなるかと思っていたが、きれこむこともなく、シートをはずすこともなく、無難にレースをまとめてくれた感じだった。

準決

スタートで佐賀医とポーッとクラブ、長医、久留米が出て、長医は三番だった。ライパに移ってもなかなか二番艇と差が縮まらず、残り二〇〇をきったところで、二枚あげ

を連続して入れるが縮まらず、そのままゴールイン。タイムは二分一秒〇八、艇をまっすぐ進めることができず、はじめ少し蛇行させてしまったのが反省点だ。私がこの大会を通じて思ったことは、スタートは大事だなということだ。スタートで出ることができれば、ローヤーはモチベーションを高めて漕ぐことができるが、前に相手がいらないとなると精神的にきつくなる。見えない相手を抜くには、技術はもちろん精神的な強さが必要になると思う。このことをこれからローヤーとしていかしていきたいと思います。

Dクルー

今回は初めてのコックスとしての試合ということで、非常に緊張した。蹴り出しの時間やレーンナンバー、救命具の準備、スタートの船付け、レース中の進路取りなど、今までローヤーやってた時はほとんどコックス任せにしていたので、不慣れな作業にはとまどった。

試合は、岩津の急病で急遽長に整調に乗ってもらうことになり、さらにフォア初めての上木を乗せてほぼつつけ本番でレースに臨んだ。予選のレース展開としては、まずスタート直後に長が切れ込み出遅れたものの、それからは徐々に伸ばしていつて四位を突き放し、三位で予選通過した。一位の産業医大「桃太郎」と二位の三菱マテリアはスタートスパートで飛び出したので、ノーワークスタートの我々は歯が立たなかった。ピッチは二四〇二五。タイム

は計測不能だった。準決勝は二分五秒八七で四位。上位クルーはスタートスパートしていたし、仕方ないところか。誰も切れ込んだりシート外したりしなかつただけでもひとまずよかった。

これからの練習は、月木土は乗艇、金はエルゴという風に行く。県漕は急ぎ足の練習になるだろうが、その後はロング漕中心にしっかりと水中を押すことと、体力を身につけさせたい。フォームを注意しつつも、コンパクトな漕ぎにならないように、水をつかんで強く押す、疲れてもストロークは抜かないということを焦点にやっつけていきたい。ほんとはもつと練習回数増やしてもいいのだが、まだ一年生だし控えめに。いかにローヤーのやる気を引き出すかがこれらの自分の課題になるだろう。

第五五回長崎県民体育大会

出場クルー

二× 碧 (古賀 大場)

四+ Aクルー 鵬翼(福島)

Bクルー 蓋世(長)

Cクルー 崎陽(茅田)

Dクルー 雄凶(山本)

西山 濱口 笠原 村田

江頭 梅田 友延 高橋

松岡 三反田 中原 日野

大橋 上木 岩津 原口

成年男子二×予選

2 長崎大学 B

3 H 2

4 碧

四分二三秒六六 二位

四分二〇秒三七 一位

四分五八秒一八 三位

成年男子四十予選

A組

2 鵬翼

3 雑草魂(大村高OB)

4 崎陽

三分五三秒九五 一位

四分二六秒一〇 二位

四分四〇秒〇八 三位

B組

2 蓋世

3 園漕会・玖城会・南商OB混成

4 雄凶

四分〇八秒四七 一位

四分四二秒一四 二位

五分〇二秒二三 三位

決勝

- 2 鵬翼 三分五三秒三八 一位
- 3 雑草魂 四分三六秒八七 三位
- 4 園漕会・玖城会・南商OB混成 四分一八秒二三 二位
- 5 蓋世 五分〇一秒八五 四位

COX記

Aクルー

八月の西医は長崎が主管であり、試合進行の様子を観察と、形上での西医を想定して試合に臨んだ。

予選

二位と三〇秒差と引き離し一位。ただ、漕ぎに無駄が目立ち、九朝以降の目標であるスパートでの爆発力をつけるという課題もクリアできていなかった。はつきり言つて自分でも信じられないほど素人の漕ぎだったので、激怒してしまった。

決勝

一位ではあるが、漕ぎがまたもや、いまいち。どうしたことか。中だるみの季節なのか？例年より大荒れの形上をはじめて体験して、COXとしては形上のコースを知れてよしとするか。コンディションがいいイメージはなかったが形上つてこんなに荒れるものなのだと再認識した一日だった。

Bクルー

予選

園漕会と、雄図（長崎医D）との三艇レースである。コンディションが悪く、艇をつけるまでに時間がかかってしまった。いざレースが始まると、スタートは合っていないながらも、一位になり、スタート二〇〇mで二位と二艇身差をつけていた。それから、レートは三〇位で合っていない漕ぎをつづけるのであるが、コンディションの悪さと、決勝でのAクルーとの対戦を考えると、足蹴りは入れることがなかった。そうして、そのまま二位と大差をつけてゴールをしたのだが、レース経験の少ないクルーだけに、どんな試合でも自分たちの最高の漕ぎをするというレースを考えていかなければいけないと思う。予選タイムもAクルーとも一五秒から差がついていたので、試合に臨む姿勢から、考え直さねばならないなと思った。

決勝

鵬翼（長崎医A）、園漕会、雑草魂（大村高校OB）、蓋世（長崎医B）の四艇レースである。午後は、午前よりも更にコンディションが悪くなっている。いざスタートすれば、AとBの一騎打ちになった。スタート四〇〇メートルまで、何とか、鵬翼についていたのだが、それから後半の粘りもなく、しかも漕ぎは常に悪かったので、見るからに合っていない鵬翼にジワジワと離される感じになっ

ていた、七〇〇メートルには、もうAと一・五艇身から差がついていて、足蹴りを入れるも合わずにただ、その差はひろがるばかりであった。最後ラストスパートを入れた八〇〇メートルなのであるが、そのときにはコンディションの悪さもあつて二七位にレートが落ちていて、何回もブレートを上げようとしたのだがうまくいかない、そこでムリにでも上げようと考えているところで、三番が切れ込んでしまい、つられて、バウが艇のガンネルにオールを引つ掛けてしまい、大きく艇は曲がつてしまった。大きくレーン侵害してしまつたが、他のレーンの艇がうまくよけてくれたので、何とか除外にならずに済んだのであるが、入賞も逃した上、艇も傷んでしまい、最悪の結果になつてしまつた。Bクルーのもろさというものが見えた大会だつたように思う。

Cクルー

一年生にとつては初めての一〇〇〇mの試合。私にとつては一年生クルーとしての初めての試合。さらに、同じ一年生クルーのDクルーとは新艇崎陽をかけてのレースとなりちよつとドキドキ。試合は、コンディションがかなりの荒れる中スタート、自艇の方向をゴールへ保つのがやつとでスタートを出す審判も分からない始末。結果例年通り予選敗退、Aクルーとは一分近い差つけられてしまつた。自分が一年生のときもそうだつたが、レースで自分の力を出し切る事の難しさ、コンディションがあまり良くないとき

のスタート、レース、集中の仕方など普段の練習ではなかなか体感できない課題を突きつけられ、いろいろと学ぶことの多い試合だつたと思う。

結果、崎陽は何とか勝ち取る事ができたのでよかつた。それにしても、練習中のDクルーのCOXのキレっぷりは、誰かに似ていて本当に怖かつた。九山後に危惧していた連鎖は始まっているのかもしれない・・・

Dクルー

シエルフォア一〇〇〇mレースとしては一年生、そしてコックスの私にとつてのデビュー戦であつた。当日の形上湾は強風と高波でコンディションは最悪だつた。潮の流れも速く、操舵技術の未熟な私にはレーンにつけるだけで一苦労だつた。対戦相手は、長崎大学の蓋世と、園漕会であつた。スタート直後からストロークサイドに大きく曲がり、ラダーを切るも潮流ですぐに曲がるというのを繰り返し、かなり蛇行させてしまつた。一二〇〇m以上は漕がせてしまつたのではと思う。レース展開としては、もともと勝つことは考えてなかつたので、自分たちの漕ぎができればいいと思つていた。そのため落ち着いて一本一本漕ぐことを意識させた。普段のパドル練習よりは安定した漕ぎができていたし、ラフコンの中頑張ってくれたと思う。タイムは蓋世四分〇八秒四七、園漕会四分四二秒一四、雄図五分〇二秒二三であつた。



Aクルー（鵬翼）

西医体 一般シエルフォア

予選C組

1	ASTERIA (大阪)	三分四五秒〇〇	五位	
2	芝蘭 (京都)	三分三二秒六七	一位	準決勝進出
3	蓋世	三分三五秒三一	二位	準決勝進出
4	青洲 (和歌山)	三分五六秒八七	六位	
5	瀛 (浜松)	三分四三秒四四	三位	
6	煌牙 (産業)	三分四四秒六六	四位	

予選D組

1	TITAN (大阪)	六分三九秒一六	五位	
2	飛騨 (滋賀)	三分二九秒二九	一位	準決勝進出
3	鵬翼	三分三七秒四八	二位	準決勝進出
4	虎伏 (和歌山)	五分五八秒二三	四位	
5	龍神 (熊本)	三分四二秒七五	三位	



Bクルー（蓋世）

準決I組

1	龍神（熊本）	三分二六秒五七	四位
2	鵬翼	三分二三秒八一	三位
3	日向Ⅲ（宮崎）	三分二二秒八八	二位
4	湍（浜松）	三分二〇秒五〇	一位
5	蓋世	三分二八秒五二	五位
6	（浜松）	三分四一秒四一	六位

決勝進出
決勝進出
決勝進出

順位決定戦

1	蓋世	三分四〇秒四三	二位
2	龍神（熊本）	三分四二秒三九	三位
3	PERSEUSEII（大阪）	三分五〇秒一七	五位
4	雷光（佐賀）	三分三九秒七七	一位
5	TRISTAN（大阪）	三分四三秒〇〇	四位
6	瀛（浜松）	三分五三秒七二	六位

決勝戦

1	日向Ⅲ（宮崎）	三分三七秒七一	四位
2	天風（岡山）	三分三八秒五〇	六位
3	湍（浜松）	三分三六秒一五	二位
4	飛騨（滋賀）	三分三二秒九〇	一位
5	芝蘭（京都）	三分三八秒二二	五位
6	鵬翼	三分三七秒二五	三位

COX記

Aクルー

とうとうやってきました西医体！今回AクルーのCOXとしてだけでなく、西医体の責任者をしていた僕は、大会一日目、自分の試合よりむしろ運営のほうに気がなり、とても忙しく動き回る日になった。

予選

試合直前まで仕事に追われて、多少あわただしくスタート位置についた。号令がかかりスタートしたものの、切れが無くスタートダッシュが出来なかつた。スパートからコンスタントの最初で盛り返したが、中盤以降は我慢の漕ぎで三位以降には余裕をもって二位で予選突破。

大会二日目。初日を終え仕事の要領は得たものの、部員全員二日目も試合があり、またもやバタバタと忙しい日になった。試合前の部員には仕事をさせないように配慮した結果、OBの先輩方に多くの負担をかけてしまった。申し訳ありません。感謝しています。

準決勝

スタート直後、勢いがあまりなく、一位狙いというより、とりあえず決勝進出の三位以内を狙うことに専念する。後半まで二位三位争いで我慢し、少し余裕をもって三位で

ゴール。途中で崩れる危険性もあったが、大きなミスもなくとりあえず決勝に出られたことに安心した。

大会三日目。残すところ決勝のみで、ここまでくれば大会は終わったようなもの。やっと試合に専念することが出来た。もちろん目標は優勝。二年の濱口以外は皆、引退試合となるので悔いの残らないようにしようと思いを掛け合つた。

決勝

スタート直後、滋賀医とともに一位争いでキャンバスくらしい他の艇より出る。スパートに入り三〇〇mコンスタントしばらくして滋賀医が少しずつ出始めている。やばい、置いてかれる。ここでピッチが三四といつものコンスタントピッチ三六より低めであったが、足けりで勢いが付かず二位。六〇〇mあたりで艇速落ちる気がする。逆サイドに艇が見え始めあせる。ここで漕ぎ手からも「上げろ！上げろ！」と声があがる。やっと、八〇〇m手前からスパートが上がり盛りかえしてゴール。結局三位になつてしまった。

結果は三位ということになってしまい残念ではあったが、西医主管という過酷な状況でみなよく頑張つたと思う。西医の主管はもう数十年回つてこないだろうから、今後は

よそ様の主管のもとで長大が暴れ回ることを期待したいと思う。みなさんおつかれさまでした。

Bクルー

蓋世

予選C組

波は昨日とうって変わって、穏やかなものである。ラフコンに弱いという体質を、この時期まで直せなかったクルーだったので、コンディションがいいのは大変喜ばしいことであった。対戦相手にも恵まれ、京都の一番艇「芝蘭」を捕らえることができたなら、準決勝に残れるというものであった。

スタートローイングで、合っていないながらも一位につけたというように思う。コンスタントに入って、ピッチ三位で五〇〇メートル地点まで京都Aと並んでいたのだが、すると抜かれていってしまった。他につけてくるクルーはいなかったようなので、足蹴りは五本だけ入れたが、勝負所に弱いこのクルーなのであろうか、逆に崩れてしまった。一艇身からつけられることになってしまった。後は終始リズムが合わない感じで残り三〇〇メートルを漕いで二位でゴール。一位の京都A（芝蘭）には一艇身弱ついたままだった。何となく、気持ちに乗らない予選だった。次の日までに修正できるかが課題と考える。

準決勝I組

今日のコンディションもすこぶる良し。ついてないことに、鵬翼（長崎A）とたいせんすることになってしまったが、Bクルーの長年の夢、「公式戦でAを倒す。西医体の決勝戦に出る」という二つの目標が同時に叶うかもしれないということ、Bクルーのテンションは合宿所から相当高かった。

いざ勇んで、スタート。スタートローイングで、浜松Aに一艇身弱つけられ、長崎A、宮崎Aとも半艇身からついてしまった。そんなに悪くないスタートだっただけに、実力の違いを見せ付けられた感があった。それから、浜松Aが先頭を切つて、長崎Aと宮崎Aが並んでいるのに、ついていくような展開になり、熊本Aを睨みながら、四位につける。五〇〇メートル地点で、先頭の浜松Aに一艇身弱、宮崎A、長崎Aに一艇身差がついていたので、足蹴りを入れる。初めて崩れない足蹴りを決めることができた。しかし、前の三艇との差はほとんど開いていく。ピッチも三二で、そんなに悪くないリズムで漕いでいたのに、前の三艇と差が開いていくということが、かなり精神的にまいった。そうして、結局最後まで追いつくことが出来ずに、七五〇メートル地点で熊本Aに並ばれたが、「決勝進出は絶望的」という思いがクルーに広がったのであろうか、足蹴りを入れるも伸びがなく、結局熊本Aに刺されて、五位に終わった。ただ、このレースで初めて大きく崩れることなく漕げ

たということが、嬉しいと同時に、こういうレースを繰り返していかなくてはAには到底勝てないという、実力の差を痛感したレースになった。

順位決定戦

今日も、コンディションはよい。この試合で、このクルーで闘うのは最後だと思うと、感傷的な気分にもなる。悔いのないような試合をしよう、それでクルーの気持ちも固まった。

スタート、ローイング。ピッチは四一とそこそこに、他の艇からキャンパス分だけ出ることになる。四〇〇メートルまで、長崎B（蓋世）、佐賀A、熊本Aと並ぶような形である。

五〇〇メートルで毎度のことながら、足蹴りを入れ、二位の佐賀Aを離れた。コンスタントピッチが三三と、若干整調もペースを上げている。しかし、佐賀Aが底力を見せてきて、七〇〇メートル地点で並ばれる。「ラストスパイト行こう」、これで熊本Aを離れた。しかし佐賀Aを離すことができない。佐賀Aと一進一退の攻防を繰り返して、結局、ゴールラインを割ったのは〇・七秒、佐賀の方が速かったということであった。蓋世、順位決定戦二位。しかし、今までで一番のレースをしたように思った。コックス自身、声を囁らすまで出したのは初めてであったし。一秒ではなく、〇コンマの世界で勝負は決まるのだなということに改

めて認識した。来年はBクルーがそのままAクルーに乗るといふ話だが、この〇コンマという世界で戦うということに肝に銘じて、これからのオフ、来シーズンを過ごして生きたいと思った。とりあえず、Bクルーのみんな、お疲れさんでした。また来年。

西医体 新人シエルフオア

予選B組

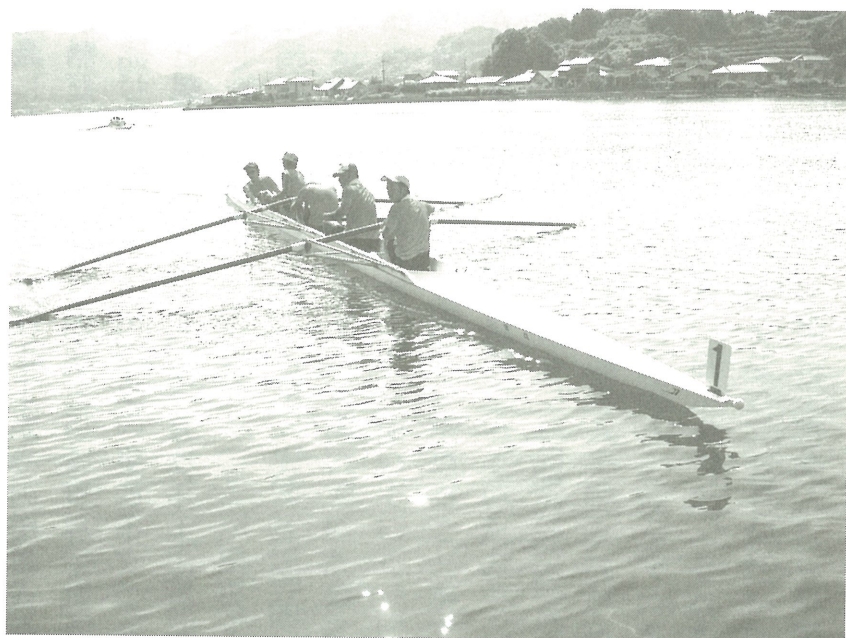
1	葉隠 (佐賀)	三分五四秒六四	二位	準決勝進出
2	重徳 Jr (金沢)	三分五八秒二〇	三位	
3	ANTARES (大阪)	三分五九秒七四	四位	
4	Spiritus (京都)	四分〇一秒一九	五位	
5	崎陽	三分四八秒三九	一位	準決勝進出



Cクルー (崎陽)

予選C組

1	雄図	三分五三秒七七	二位	準決勝進出
2	浮立 (佐賀)		除外	
3	斎藤 麟 颯 (浜松)	三分四七秒五五	一位	準決勝進出
4	LUPUS (大阪)	三分五六秒一〇	三位	
5	神威 (熊本)	四分一三秒四五	四位	



Dクルー (雄図)

準決G組

1	不死鳥Ⅲ (宮崎)	三分四四秒二四	三位	決勝進出
2	葉隠 (佐賀)	三分五二秒二九	六位	
3	天啓 (岡山)	三分四〇秒〇一	二位	決勝進出
4	白虎 (熊本)	三分三三秒五六	一位	決勝進出
5	雄図	三分四六秒三八	五位	
6	英駿 (産業)	三分四五秒五四	四位	

準決H組

1	二ノ湯組 (滋賀)	三分四八秒三七	四位	
2	天照Ⅱ (宮崎)	三分三九秒二〇	一位	決勝進出
3	サクランボーイズ (浜松)	三分四六秒四九	二位	決勝進出
4	崎陽	三分四七秒七二	三位	決勝進出
5	VEGA (大阪)		棄権	
6	ラブワゴン (京都)	三分五〇秒三七	五位	

決勝戦

1	天啓 (岡山)	三分五五秒六〇	三位
2	不死鳥Ⅲ (宮崎)	四分〇四秒七七	四位
3	白虎 (熊本)	三分五〇秒五〇	一位
4	サクランボーイズ (浜松)	四分〇六秒九五	六位
5	天照Ⅱ (宮崎)	三分五〇秒九四	二位
6	崎陽	四分〇六秒五〇	五位

CCX記

Cクルー

このクルーでの最後の試合、そして自分にとっても最後の試合となった。条件はみんな同じ新人フォア、狙うは優勝、と試合に臨んだ。予選・準決勝と何とか勝ち抜き決勝へ、しかし、決勝ではスタート後から上位三艇が抜け出し、その後も上位に迫ることはできず五位争いとなり、ラストで何とか振り切り五位。

決勝前には、決勝に来る事ができたという事で、他の艇のタイムと自分たちのタイムを比べて優勝は無理でも何位にならなれそうだ、などと言っていたローヤーも、試合後のミーティングでは涙を流して悔しがってくれた。涙を流せるのはそれほど思いを込めて打ち込んだ証拠だと思われ、正直とてもうれしかった。きっと彼らなら次のそれぞれのクルーでも最高の結果を残してくれるに違いないと確信している。

Dクルー

九朝後のクルーの練習目標としては、とにかくフォアで長時間漕ぎ込み、バランス感覚を植え付けさせることを意識した。ミドルは一年生なので、まだまだフォームも安定しないのでそうした細かい所を注意しつつ、また足で蹴ることも強調した。西医体前の完成度としては、練習時間は

それなりに確保し、パドルも一年生には多少きついかな本数をこなして、まあなんとか形にはなったのではと思う。ただ、やはり問題は中盤のコンスタントから後半にかけての伸びで、ここをもっと粘りたいところではあった。

西医体本番、新人フォア予選C組、一レーンから順に雄図（長崎）浮立（佐賀）テロ（浜松）LUPUS（大阪）神威（熊本）であった。スタート前は非常に緊張し、ラダーを握る手が小刻みに震えた。とにかくレーン侵害だけはしまいという思いから、試合中は進行方向ばかりに気をとられてうまいコールをかけられず、自分の未熟さを思い知った次第である。レース展開としては、スタートは失敗しなかったもののそれほどよいスタートでもなく、スタート直後は三位だった。浜松が序盤から飛び出し、すでに半挺身は出られていた。その後雄図は中盤で追い上げ、結局二位で予選は突破できた。結果は一位から順に、浜松（三分四七）長崎（三分五三）大阪（三分五六）熊本（四分一三）佐賀（除外）であった。

西医体二戦目、新人フォア準決勝G組、一レーンから順に不死鳥（佐賀）葉隠（佐賀）天啓（岡山）白虎（熊本）雄図（長崎）英俊（産業医科）であった。準決勝でもかなり緊張してクルーのみんなにはご迷惑をおかけした。本番での試合運びがコックスとしてまだまだ足りないことを認識できたので、来シーズンもしコックスとして乗るときは、普段の練習から試合を意識したラダー操作のテクニクを

身につけたい。試合展開は、とにかく白虎が速かったのが印象的だった。結局このクルーは優勝するのだが、スタートロイニングで他の艇をつきはなし、そのまま独走した。あとは一・三・五・六レーンがほぼ並んだ状態で中盤までもつれこんだ。雄図は途中まで三位だったが、五〇〇mを過ぎたあたりからじりじりと追い抜かれ、その後足けりとスパートロイニングをかけるも及ばず、五位に終わった。タイムは一位から順に熊本（三分三三）岡山（三分四〇）佐賀（三分四四）産業（三分四五）長崎（三分四六）佐賀（三分五二）であった。

今回は自分の技量不足も相まって非常に悔しい結果となった。しかしローヤーのみんなは本当によくがんばっていた。整調が後ろを引っ張り、バウが後ろから一年生を後押しし、ミドルの一年生はきつい練習によく付いてきてくれた。この悔しさは必ず来シーズンに生かしたい。

シングルスカル記

二年 古賀 俊充

予選B組

- | | | | |
|----------|---------|----|------|
| 1 古賀（長崎） | 四分五二秒四〇 | 三位 | 準決勝へ |
| 2 廣田（産業） | 四分三〇秒四九 | 一位 | 準決勝へ |

3 大島(鳥取) 四分三四秒六八 二位 準決勝へ
4 滋賀医大B(滋賀) 棄権

準決E組

2 廣田(産業) 三分五六秒八八 二位 決勝へ
3 柳澤(鳥取) 三分五二秒一六 一位 決勝へ
4 古賀(長崎) 四分〇八秒七九 三位



今シーズンからシングルスカルを漕ぐことになった古賀俊充です。と言っても実際に漕ぎ始めたのは西医体の一ヶ月前からなのでシングルの技術面に関しては何も語ることはできません。しかし、一ヶ月でもシングルの難しさと今後の練習に関して分かった事を書こうかと思えます。

シングルを乗ったことがある方なら分かると思うのですが、とにかくバランスを取ることが命に関わります。僕も乗り始めて二週間は(時間がないということもあって)かなり無理な乗り方をして何度も沈しました。しかし、大切なことはそこから一人で復帰できることで、それができればいくら沈しても問題ないと思います(どんなに上手い人でも沈はするらしいです)。最近ではバックステイ付きのシングルが主流で沈からの復帰は難しくなりましたが、形上で練習することでそれも身につけることができました。

さらにシングルは一緒に漕ぐ仲間もいなければコックスもないので全部一人でやらなくてはなりません。特に試合前の不安な時も励ましあうこともできませんし、試合中のペース配分も自分でコントロールしなくてはなりません。フォアに乗っている時はとにかく漕ぐことに全力を注いで気づいたら試合が終わっていたこともありました。シングルでそれをするとはほぼ確実に負けます(西医体がそ

うでした)。体はローヤー、頭はコックスでなくてはいけないのです。

最後に最大の難しさはシングルがマイナーということ。一般的にはそうでもないらしいのですが西医体ではほとんど五、六年の人が出ていて僕のような低学年はいまませんでした。参加人数も少なく(西医体も棄権者が出たため予選は無条件通過でした)、おまけみたいな感じです。部内でもやはりフォアがどうなるかというのが話題の中心でシングルはよく忘れられています。もともとシングルは自分ひとりだけで練習計画を立てて自分の漕ぎについても自分で評価しなく、モチベーションを保つのが最も難しい種目です。僕は好きでシングルをやっているのですが、やはり周りの人が応援してくれたり、励ましてくれた方が頑張れるし、きつい練習の時はやめたくなくなってしまうのが本音です。

今までで感じたことはこんな感じです。今後は全学の人に色々教えてもらいながら、まずはロングを長く漕ぎこもうとおもいます。低ピッチで丁寧な漕ぎことで力の伝導率を高め、筋力・体力をつけることが重要だと思います。夏休みに練習したときにあまり上体を使えていないことを指摘されたので当分は上体を効率的に使う漕ぎ方を考えていこうと思います。





卒業生追いだしコンパ 於 宝来軒

ステイラーズが 二十六年ぶりの王座奪還！

六年 荒木孝太郎

第四十回スーパーボウル、シアトル・シーホークス対ピッツバーグ・ステイラーズの一戦が行われ、ステイラーズが二一対一〇で勝利。

二十六年ぶりの栄冠を掴み、ダラス・カウボーイズ、サンフランシスコ・49ersに並んで歴代一位タイとなる通算五度目のスーパーボウル制覇を成し遂げた。

引退を決意したRBジェローム・ベティスを、初のスーパーボウルに連れて行くことを合言葉に戦い、ベティスは自らの出身地であるデトロイトへの凱旋を勝利で飾り、十三年のキャリアに終止符を打った。

アジアの文化だと思っていた『スポ魂』ですが、アメリカ人もなかなかやるもんですね。感動しました。

この王者ステイラーズ、全身の筋力強化に使っていたのがお馴染みのエルゴメーター！

あの強者達を作り上げていたのがエルゴだったと思うと、シーズンよりつらいオフシーズンも気合が入るかな。

エルゴメーターといえ、先日、女子世界記録が最近更新されたらしい。

新たなレコードホルダーとなったのは、フランスの Sophie Balmay。

昨年のアテネ五輪では、女子舵手なしペアのバウを漕いでいた選手だ。

タイムは…… 六分二八秒〇四。

五〇〇m LAPは、一分三六秒〇六〜一分三七秒〇七〜一分三七秒〇三〜一分三六秒〇八。

タイム変動がすべて一秒以内という、驚愕のイーブンペース。

このタイム、世界はすごいと考えるか、意外に世界にとどくかもと考えるか。

現役たちよ、がんばって！期待してます。

ちなみに男子世界記録のタイムは……

萎えるのでやめときます。

卒業

六年 夏田 孔史

遂に卒業しちゃうらしい。自分でびっくり。この六年は長かったような、あつという間だったような。何かしら実のあることをしたような、してないような。

時代は変わって色々やりにくい世の中になりましたが、みんななりのやり方でがんばって、結果を出してくれと信じてます。がんばってね。

冬野誠也伝説 序章

六年 冬野 誠也

アメニモマケズ、カゼニモマケズ、

サケニモマケズ、アサレンニモマケズ、

ユウワクニマケ、ナツダニオコラレ、

カラオケデヌギ、オオバニオコラレ、

ヒガシニ ゼンラノオトコアレバ、

ジブンモゼンラニナリ、アトヲオツテイキ

ニシニ ケンカヲシテイルオトコアレバ

シヨンベンヲシニイキ

ミナミデ ケイタイデンワヲカワニオトシタラ

イソイデトビコミ アシヲケカシ
キタデ ナヤメルシンニユウセイアレバ
ボートハイイゾトイイ オオムラカートニツレテイキ
ノミカイニイエヲアケワタシ
カラダヲハツテ ボートヲアイシ
ミンナカラアイサレレバ ホカハナニモイラヌ

やつと卒業かあ…

六年 山道 忍

今こうやって八年間の学生生活を振り返ってみるとボート部との思い出しか残ってないなあ。

例えば一年生の時の県漕。当時のAクルーが決勝で負けてしまい、その日の飲み会は荒れていた。そして学校に戻ってきてからのあの消火器事件…。その頃まだ若々しかった俺もこの時にはあたふたするしかなかった。これによる西医体の出場停止。うくん。夏合宿だけはあつたつけ。

この年の朝長杯ではまさかの準優勝。決勝はみんなふんどしで頑張り、特に同級生のY武君やK藤君が頑張ってたなあ。

立山にいたた相見では当時見た暴れ出で先輩も多
同級生のS下君はOさんに投げられ、受け身を取り損ない腰負傷。自分は一人で簡易トイレの中で潰れてしまい、起きてみると誰もいない…。仕方なく歩いて帰っているとポツポツと雨が降り出す始末。仕方なく浜口までタクシーで帰っていききましたよ。さみしかったなあ。

そういえばSさんとN田君が体育館の裏で喧嘩してたこともあつたなあ。俺らが気付いた時には、N田君が殴られたらしく鼻血を出して悔しそうに泣いてたつけ。

バトルといえば四年生の時に当時一年生だったI君とガチンコ異種格闘技戦やったなあ。プロレス好きの彼が繰り出す数多の技をぐぐり抜け、最後はチヨークスリーパーでKOしてやったよ。ちよつと大人げなかったかな？

とまあ、いくつか殴り書きしてみたけどボート部との思い出はこんなところでは書き尽くせる訳がないよ…現役のみんなも後世語り継がれるような伝説を作ってから卒業するのもいいと思うよ。

最後に右も左もわからなかった自分に声をかけてくださった先輩方に感謝します。皆さんありがとうございました。

◇新入生紹介◇

上木 智博

岩津 伸一

うさんくさくないよ岩津!!

「センバァーイ! 今日もまたスタバ行ってきましたよお。今から一緒にどうですか? 行きましようよ!」振り返るとやつがいる。岩津だあ!! チャゲアスの YAHYAHYAHY! の曲とともに登場する彼。ピュアホワイトのヤマハ純正ヘルメット、深紅のマフラー、バーバリーのジャケットにチエックのベスト、細身のパンツ、そして右手にはスタバのコーヒー、左手にはスタバの紙袋を装備している、相当のイケメンである。彼にはスタバにお目当ての女の子がいるらしい、しかしチャクラ(彼の造語)が足りないらしく声をかけることができないという。そんな彼はなんと笠原さん、江頭さんと同級生である。うくん確かに……。そういわれれば……。 (笑) そんな彼は長大祭では高校生のメアドをゲット! やるねえ。身長は一七七センチ体重六九キロと、いわば長大にいない太いやつである。アメフトをやっていたらしい。きっと彼ももう一年もするとエルゴのとりこになるのかと思うとたのしみである。マジ期待してるぞ岩津!!

よしスタバに行くぞっ!!

(文責 友延)

上木を初めて勧誘で見たとき、「あつ、梅田」と思ったのを今でも覚えてる。なんか雰囲気にてるなと思っていたが、彼を段々と知るうちに印象が変わってきた。こんなにも第一印象と変わった人はこれまでにいない。彼は、今ではもはやポト部に不可欠の人材だ。鹿児島県の奄美出身で見た目は確かに濃い。背は高くないが、高校では柔道部に所属していて、そのためがたいはいい。この体から発されるパワーは確かにすごい。今後も期待したいところだ。おもしろいやつで人なつつこい。それだけではなくて、女の子のチェックも早い。なかなかポテンシャルの高いやつだと思われる。先輩への気遣いもしっかりしていて、一つの学年に彼のような後輩がいるのは心強い。今後も部を盛り上げてくれることは間違いない。頑張れ!!

(文責 松岡)

大橋 和明

大橋は今までにサッカー部や陸上部に所属経験があり、気の優しい誰からも好かれるタイプだと思います。シーズン中はクルーが違ったのであまりからむ機会もなかったのですが、ある先輩から集中砲火を食らって凹んでいるのが何とも痛々しかったです。

しかし、めげずに練習を続け西医体では新人部門で四位という輝かしい記録を残してくれました。大橋のひたむきに練習に取り組む姿勢は今後の部にとっても貴重な財産となると思います。オフシーズンの前半では一緒に練習していたのですが、順調に成長していると思います。何より「負けたくない」という気持ちで自分を責めてエルゴを引く姿は他の一年生にも見習って欲しいと思います。今後は背筋群を鍛えていくことでもっと記録が伸びると思うよ。心配なのはサッカー部時代に痛めた膝が再発しかけていることです。痛いと思ったらランは避けて膝に負担がかからないメニューをこなしたほうがいいよ。ここで故障してローイングに支障をきたすのは非常にもつたないしね。

(文責 古賀)

三反田 拓志

すらつとした長身にヒョウヒョとした雰囲気、さらにはサントングというものめずらしい苗字。一度会っただけで彼の印象は誰にでも強く残る。

そんなわけで、勧誘では早々とマークがつき、満を期して入部をすることになる。

こうして彼の大学生活は始まったわけだが、ある部員いわく「拓志、タクシーに轆かれる事件」によつて、非常に残念なことに彼の下腿の骨とともに西医体新人戦への道が

潰されてしまふ。しかしながら、たとえ乗艇ができずとも西医体運営や長大祭の出店など部への貢献はあつた。

今では徐々に回復をみせ、来シーズンにはその長身を活かした貴重な戦力として華やかな復活を果たしてくれることだろう。

趣味としてジャズに興味を持ち、ウッドベースをはじめたりジャズバーに出入りするなどポト部らしからぬ一面を見せてくれたりもする。

(文責 梅田)

中原 知之

南の島からやってきた熱い男。沖縄からやって来た。たまにわけのわからないギャグを言うときもあるが、礼儀正しく熱いハートを持つ男だ。その場の勢いでポト部に入ってしまうおちやめな一面も持つ。今シーズンは茅田さんに鍛えられ、脅威の進歩を遂げた。これからも彼の進化が楽しみだ。本人は認識しているのかわからないが、結構モテるようである。いろんなところからオフアがあるだとかないだとか。がんばってほしいものだ。

(文責 浜口)

◇部員雑感◇

雑感

五年 大場 修治

いつのまにかもう五年生になり、進級判定におびえないですむようになりホッとする反面、残りの大学生活が少なくなつたことを非常に残念に思う今日この頃。行事があるたびに過去を思い出すようになった。一年のころはかなり先輩に飲み会などで迷惑をかけたたり、ちよつぱりかけられたり……。行事では特に印象に残つたのは林杯と追いコンと花見と……。でも当時嫌だつた事も思い出になれば楽しいことが多かつたかな。あと一年、さらに濃い一年にしようと思う今日この頃でした。

雑感

五年 茅田 洋之

六年生！ついに現役を引退し、朝練も夕練もなく週末もまったくどフリーの日々。

なのに最近は週末になるとエルゴひいたり、筋トレした

り、ちよいといいいビールを飲みながら軽くこつたダイナーやらをこさえてみたりと、かなりプレミアムで最高の週末をおくっています。

ぶつちやけかなりヒマです。誰か遊んでくださいナ。

というのは冗談ですが、ボートにまったく乗らない日々というのは、新鮮で自由である一方ちよつとつまらない感もあります。バリバリに漕ぎまくっていた現役時代を思い出してもかなりキツくて、暑くて、日焼けして、手もボロボロで、腰も痛くて、膝も痛くて、それでも週末・平日関係なく朝五時で……。

それでも今思えば楽しかったような気がします。(タブンに気のせいのような気がします)

まー現役の人々にはなかなか分からないかもですけど、終わってみたらきつと分かりすヨ。どーんなふうにごしても、そんなに遠くないうちに部活としては引退しちゃうんで、しつかり楽しんでくださいナ。

ところで！純情きらり！イイですネ、毎日ビデオに撮つてまで見ていますが、宮崎あおいスバラシイ。実習から帰ってきて、いつも癒されています。今後の展開やいかに！みんなも気が向いたら見てあげてください。

さらに！ついにワールドカップ！今大会はついにオレン

シ軍団の復活がかなり期待できそうなカンシ。個人的には今回こそアルゼンチンに行つて欲しいっすねー。さらにイングランドのテリー、映画俳優のケビン・スペーシーに似てるでしょー。

あとは！マツチングに卒試に国試・・・。

ホントに最後の一年間、べんきよーべんきよーのみまつせー。

雑感

五年 末下 雅也

年を取つた証拠というか、昔の事を懐かしく思うことが増えました。

高校野球のお兄さんが年下になつたことに気づき、年を取つたと感じる人も多いと思いますが、同級生が結婚したりと周りが大人になつていく中、自分はあまり成長してない気がしなくもないけど、子供の頃つて確実に今よりも幸せでした。

大学に入ったばかりの頃もそうだけど、小学生の頃なんて天国でした。

例えば俺が小学生だった頃、約十五年前のジャンプは今考えるとすごい。

(当時の連載の一部) ドラゴンボール、スラムダンク、

幽遊白書、タイの大冒険、シ、シ、シ、ターちゃん、珍遊記、
電影少女、その他多数・・・。

もうね、今のジャンプがアホかと思うくらいのラインナップです。こち亀の面白さも今とは大違いです。

当時小学生の俺は「えー、びでおがーるなんて読んだことないよー」なんて言う純朴な少年でした。「電影少女」と書いて「ビデオガール」と読める事自体「おめー読んでんじゃねーか」つて話ですが、まあそういう小学生だったわけです、今とは大違いです。

今は単なるうんちく好きのおっさんと化してしまい、「則巻センベエとラオウの声優が同じ」とか、「カミーユとちびまる子ちゃんの丸尾君の声優が同じ」なんて話をして「へえ…、すごいですね」と微妙な反応をされるのが精一杯です。別に声優に限らず、日々うんちくを蓄える日々ですが、「えー、すごいー」と言われてモテモテ、なんて事は一度もありません。

三十、四十になつたとき、「二十代が懐かしいなあ、なあおい！」なんて言う、うざいオヤジになる可能性大ですが…そのときは「はあ…そうですね」くらいは言つて欲しいなあ、と思います。

ある先生に聞いた面白い話

五年 西山 光郎

もう引退してしまいました。部活に顔を出さなくなるともう部が少し遠く感じます。

あれだけ顔をあわせていた部員たちにもあまり会わなくなるし、なにをやっているのか分からない。誰がエルゴを一番引くのか？飲み会は盛り上がっているのか？知らないだけに少し心配ですが、これも時代の流れ。後輩のみんなは頑張つて欲しいです。

先日ポリクリ中にある先生から面白い話になる話を聞きました。

「大事なのは決めることじゃない、その後なんよ。専門をどこにしたらいいか、研修病院をどこにしたらいいか、そんなん分からん。気合いでえいやつと決めて、その後を選んでよかつたって思えば、それが正解なんよ。結婚も一緒。だから決めることじゃなくて、決めた後の方が大事なんよ。」(ある科の教授のお話)

「俺ポート部に入ったから、ちゃんとまじな人間になつてるよね。」(三十周年記念の後の市川先生の一言。)

「昔の先生は結構ドイツ語使うんよね。だからパルスをねブルスって言うとねくくしぶい！」

(一番最初のポリクリのオリエンテーション中の中山先生。)

「先生はね。凄いですねとかそういうの求めてるんじゃないよ。マジッスカ!!なんよ。マジッスカ!!って言ったらたいていの先生は喜ぶ。」(飲み会の時の茅田君)

最後にポリクリ学生のさしすせそ

さ さあ。

し 知りません。

す すみません。

せ 先生!!

そ そうなんですさく。(by くっさん)

これらを参考に今度ポリクリに入る四年生は頑張つてく
ださい。ちなみに最初の話はポートにだつて当てはまりま
すね。ポート部に入るって決めたのも気合い以外のなもの
でもないし、続けてればやって良かつたって絶対思え
るからみんなも引退までがんばってください。それでもつ
て精一杯ポートをポート部を楽しんで盛り上げてくださ
い。

五年 原口 雅史

ボート部に入つて約四年数ヶ月。あつという間ではあつたが、この前の西医体で引退となりました。あつという間という思いがする一方、実際に繰り返し返してきた練習を思い出すと、良い事悪いこと、いろいろな事が頭をよぎり、こんなに濃いイメージを持たせてくれる部もそう多くは無いと思います。ところで、部誌を書くときには、いつもボート競技とは無関係な何らかのネタをあえて書いていたんですが、今回はネタが無い!!まつ、今回は引退を節目に真面目な事(ボートについて)を書きます。

僕らが最大の目標にしている西医体は現在のところ、シエルフォアがメイン種目です。当然ながら、部員の殆どがシエルフォアに乗つて練習している。僕も競技生活の殆どをフォアで過ごし、COXまで経験しました。だが、実は一年時はシングルスカルで西医に出たという貴重な体験もさせてもらいました。その時の事を知らない人もいるし、約二ヶ月という短い期間(県漕後く西医)ではあつたが、今回はその時の話を簡単に……。

二〇〇一、六月() 県漕後の新人クルー編成ということとで人数の都合上、シングルスカルへの異動届が出される。フォアと決定的に違ふのは、そのバランスの悪さ。初心者

に最大の問題となるのか「沈」いすね経験するとは思っていたが、そのタイミングはあまりにも悪すぎた……六月某日(土)、快晴。その日はAクルーの練習を見るためにUコーチがいらつしやつていた。自分は、Aクルーとは別の所で先輩と練習していた。スタートの練習でキャッチの姿勢をとり続けているうちに初の沈となつたが、この際、沈の過程はどうでもいい。問題はその後で、初の沈でパニックになつていよううちに遠くからモーターボートがやつてくる。助かった!救助艇だと思つたのもつかの間、「何やつてんだ、早く上がれ!なんだ、上がれないのか!岸は近いんだから自分で上がれよ。」そう、初沈だから上がれない。いや、上がり方すら知らないのだ(泣)コーチの言葉にも威圧されてしまい、救助艇がなぜか黒船に見えてきた……岸が上がつた後、ペリー、じゃなくてコーチから「上がり方も知らないうちから漕ぐな。まずは艇の持ち方、上げ下げから練習しろ。」と。そして、乗艇ならぬ運艇練習が開始。皆は海で catch row, catch row。僕は一人で high low, high low。艇の持ち上げの繰り返しだけなのに意外にきつい。気持ちだけはずっと low。そこには、この日の快晴とは対照的に表情が曇つていく自分が。(あの練習の次から、艇運びが随分楽になつたのは事実だし、恨んでいるとかじゃないです。体力的にきつかつたという事です。)そして……

二〇〇一、西医の前日() 場所は遠賀川。配艇練習中のこと、ノーワークからライパに移るとき、頭の中で「ライト

パドル行こー、さー行こつ」とタイミングを計って強く蹴った瞬間。ポキッ。あれ？視界が傾いていくよ？なんで握っているのはグリップだけ？俺はライパに行つたけど右手のオールはどこに行つたの？・・・知ってますか？どうしようもないと悟つたときの沈つて驚くほどスローに感じられて事を。息止めの準備ができる程に!!・・・まっ、知る必要は特に無いかと。川から這い上がれ、腐食して折れたオールの代わりも用意できたけど、僕の心は折れて水底に沈んだまま。結局、試合には出られたけど、その結果についてはボート歴三ヶ月（シングル歴二ヶ月）には午後の遠賀の荒れ模様は過酷すぎたただけ伝えておきます。キーワードは、水の流れには逆らえない。

シングル繋がりでもう一つ。キーワードは、人の流れには逆らえない。

二〇〇四、県漕帰り）帰りはそれぞれが好きな船に乗るため、フォアのローヤーを希望するも部員の殆どがスカル未経験者なのでやむを得ずシングルに異動。参考までに確認しておくが、帰りは一度外海に出るのである。それを考えると嫌な予感がする。いや、もはや悪寒がする。県のボート協会の方は呑気に「外海は荒れるから気をつけろよー（笑）」って、気をつける？何に??気をつけるぐらいなら艇に浮きを付けたいよ、と感じた今日この頃。

・・・悪あがきをするものの、結局、（周りの）流れには逆らえずそのまま出陣。無念・・・

約二〇〇三〇分後、場所は外海の入り口。明らかにうねっている。ここで最後の悪あがきを見苦しいほどするが、やはり難なく却下。ここからのテンパリ具合は波のコンディションと同様に最高潮である。C君が「原口さーん、その近くに岩があるから気をつけてくださいねー」の折角のアドバイスにも、「うるせー！お前らがそこをどかねーから動けねーんだよ！さっさとどけや!!」とブチキレの始末。Cくん、ごめんね。と今なら謝れます。今なら、です♪レンジも切れながら漕ぎ続けて約一時間後、艇庫前へ生還できたときは本当に安心しました。そして、この時、艇の上で仰向けになって見た若干赤みはじめた青空は絶景でした。体験すれば分かります、空が輝いています！テレビ番組で流れている絶景一〇〇選にも負けないです。お薦めは・・・勿論致しかねますが。

・・・いろいろありました。いろいろあるからネタもたくさんあります。けど、その反面、こんな風にネタにできないような辛い事もありました。正直、部を辞めたい時もあったけど、結論だけ言うと言つて良かったです。ひよつとしたら、僕の知るところ知らないところで同じような事考えた人がいるかもしれせん。あまり偉そうなことは言えないけど、留まる道を選んでくれた人にはほんとに感謝しています。辛い時はどんどん人に助けてもらいましょ。迷惑かけていきましょ。けど、助けられっぱなしなもの迷惑すぎるし、その分他の人に気い利かせていければ良い

のでは。(気は使うものではなく、利かすものらしいです)長崎大学医学漕艇部というチームが単なる個の集まりでない部活であり続けていってほしいです。部活のことだけに限らず、沈んでしまっても誰かが助けてくれて、誰かが沈んでいたならそれをほっとかない雰囲気これから大事にしていきたいです。

今回は、初めて真面目な事(も)書きました。少しどくなりりましたが、今回は引退の年だったし、いろいろ欲張って書きたかったので、悪しからず。来年は三行で終わらせます、たぶん。

雑感

四年 笠原 優人

西医体が終わり、引退して早くも半年が経ちました。引退した後に、みんながエルゴをひいているのを見るのは、格別です。最高にかっこいいです。ガンガンがんばっちゃってください。

さて、最後のシーズンを振り返ってみようと思います。九朝の一週間前ぐらいからAクルーとして参加。それまで一ヶ月くらいまともな練習をしていなかったのですが、その一週間は物凄くきつかったです。明らかに細くなっていた筋肉が、一週間後には一回りの二回りも太くなっています。

た。おそろしやAクルーの練習です。そして迎えた九朝では優勝。これは本当にみんなのおかげでできたものだと思います。本当にいいところ取りでした。

その後県漕や二番から整調へのポジションチェンジなどいろいろあり、西医体へ向けての夏合宿も終わり、西医体を三・四日後に控えた日。なんか物凄く寒気がするなと思いを、熱を測ってみると三九度近くあり、急いで就寝。次の日に前にかかったことのある病院にかかり、薬をもらい、また家に帰り就寝。それでもなかなか熱が下がらず、丹羽先生の指示で井上病院に行きました。検査の結果、尿や臓器に異常はないものの、CRPが一三もありました。勉強不足の僕にはいまいちピンとこない数字でしたが、相当高い数値であるらしく、明日の試合は出るのをやめなさいと言われました。入院。それでも、いやいけるだろうと樂觀的な考えでいましたが、真剣にやめたほうがいいと先生に説得され、本当に無理なのではないかと思いましたが、やはり他のメンバーのことを考えると、その時点であきらめることはできず、次の日の朝の検査で、判断することになりました。点滴は朝まで続きました。そして次の日、CRPは結局下がるわけはありませんでしたが、僕の判断に任せるとおっしゃってくださったので、僕は出ることを決めました。

一日目は久しぶりで体が思うように動かないながらも予選は通過でき、とりあえず安心しました。その試合の後

また病院へ戻り、点滴をしました。幸運なことに体調は悪化することなく、二日目の準決勝。この日は昼の試合ということもあって、僕は試合前から日に照らされて、クラクラしてこれはやばいのではないながら、水を頭から大量にかぶり、何とかスタート。試合中もクラクラしながら何とか漕ぎきり、三上がりの三位で何とか決勝へ進出。そして三日目の決勝。熱も完全に下がり、万全とはいえないものの三日間で一番体調がよくなり、優勝を狙ってがんばりましたが、結果三位。本当に残念な結果となりました。

僕の体調が悪くなっていなかったら、みんなもつと調整ができ、違う結果になっていたかもしれないと思うと、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいになります。来シーズンは是非、西医体で優勝できるようにがんばってください。本当に西医体の時はAクルーはもちろん部員みんなやOBの先生方にも大変ご迷惑をかけました。すいませんでした。

結局熱の原因はわからず、不明のままですが、最近ご飯はしっかりと食べているのに痩せています。大病じゃなければいいのですが…。

部活を引退して

四年 福島 真典

部活を引退して、後輩たちが部活を引つ張って行っている様子を見て、みんなたくましくなったなあと思うようになりました。これからも頑張ってください。

最近COXの生活を振り返って、実は僕はむちゃくちゃ不健康なことをしていたのではないかと思ひ始めました。COXの人は気をつけてください。そう思った理由を挙げていきます。

- ①朝が早い（ボート部みんな共通です）
- ②COXは全く運動してない（学校から車、子々川から船、学校まで車。多分朝練で一〇〇歩位しか歩いてない）
- ③トップコックスは頸椎に負担がかかる
- ④COXはストレスがたまる（これがかなりきついです。僕は練習後、水道のホースを口に入れて大声で叫んでうつぶんを晴らしていました。）
- ⑤合宿ではさらに動かず、でもローヤーと同じ飯を食い昼寝までする（一日十二時間くらい寝ています）
- ⑥Aクルーになると部活は週十一回くらいやっており、自分かむちゃくちゃ部活しているように錯覚してしまう。これらのことを自覚していれば、きつと健康的ですてきなCOXライフを満喫できることでしょう。

四年 村田 慎一

- ・テストが終わり、軽く運動—えるぞ。
 - ・テレビできれいな水面—ちよつとへこむ。逆に荒れた日本海—ニツコリ。
 - ・ちよつと生意氣—怒つとく。(健全な形で)
 - ・てすと—再試でいいかな。(健全な形で)
 - ・女の子—かわいい。(健全な意味で)
 - ・高校生—スカート。(・・・)
 - ・俺—信長。
- ボート部に入ってキャプテンをしてみてもこんな思考回路になつたかもしれせん。最後のは理想かな・・・。

キャプテンとして西医体の年、初夢が西医体で、しかも優勝したんです。先輩には初夢までボートに犯されるとは・・・と言われましたが、僕はうれしくつてみんなに言いまくつて、メーリングリストでも回したんです。

この前「マンガ日本昔話」を見てたら、初夢を誰にも話さなかつたらかかないますよ〜つてお話し。知らなかつたな〜・・・

三年 江頭 崇

そもそもボート部に入った動機を考えると、やはり大村のカートで冬野さんの乗った車と衝突したことが原因ではないかと思う。よく考えればマリオカーでも逆走したり道はずれたりしていたのにいきなり本物のカートに挑戦したのだから無理というものだった。そんな動機で入ったからか一、二年のときは入ったことを後悔してばかりいた。三年になって競技のおもしろさを感じ練習を頑張れるようになり、ようやくボートが楽しくなってきた。最後のシーズン悔いのないように精一杯練習しようと思つています。

雑感

三年 小松 直広

このオフシーズンからコックスに転向した。これは腰痛のためローヤーとして続けていくことが困難になつたからだ。正直に言うと、コックスはやりたくなかつた。これには二つの理由がある。一つはやっぱりローヤーでいたかつたからだ。僕はローヤーだった頃、整調のポジション

にいた。その頃からなぜか整調のポジションに愛着があった。ずっと整調で漕いでいこうと自然に思うようになった。僕が入部した当時は夏田さんがキャプテンで整調をやっていた。自分もAクルーになって整調をやってみる、と考えていた。今思うと、自分には西医体で優勝するよりもAクルーの整調を務め上げることの方が目標だったような気さえする。それ程自分には整調というポジションに思い入れがあった。それが一つめの理由だ。二つめの理由はコックスをやっている自信がなかったことだ。腰を痛めて一年のブランクがあったことも一つの要因だろう。それに今まで自分が見てきたコックスがあまりに大きくて本当に不安だった。実際に今年のオフシーズンでコックスをやってみるとテンパって艇をつけるのもままならなかった。こういうのは経験だから仕方ないと思うようにして何とか艇の操縦を勉強した。しかしコックスとして一番大事なのは練習の際、悪い漕ぎに対して的確に指示を出したり、どうすればもっと速くなるのかをローヤーに伝えていくことだと思う。そういったことを全て実行させてローヤーに信頼されなくてはならない。「信頼」、それを獲得するにはローヤーの知っていることはもちろん、知らないことまで知っていなければならぬと思う。そのためには練習以外のところでボートについて勉強することが必要だ。一年のブランクを埋めるためにも、信頼を得るためにも、そしてもちろん優勝するためにも。

来年の西医体まで立派にコックスを務めてみせる。

雑感

三年 高橋 一臣

最近のリサーチと練習と飲み会の三点セットでぐるぐるぐるぐる毎日が過ぎてつてます。ほんと書くようなイベントごとが無いな。飲み会のこと書こうか、でもあんまり記憶がない。練習のこと書こうか、なんか思い出しただけで気持ち悪くなってくる…。リサーチのことを書きます。

僕は原研分子でお世話になってます。バセドウ病の研究でマウスを使った実験が多いです。いろんな実験をさせてもらっているんですが、その中のいくつかを紹介します。

・好きな実験

〈麻醉をうつ〉 マウスの腹腔に注射するんですが、注射器を持つとなんか一人前の医者になったかのような勘違いに陥り楽しいです。ただ針を腹に刺すだけなんですけど妙に針の角度とか気にして、痛くなかった？と心の中で心配したりしてます。麻醉がきれて油断しているとマウスが逃げ出します。実験室中追いかけるはめになります。

〈採血をする〉 といつても注射器でかつこよく血管から血を採るのではありません。しつぽをはさみでチヨキつと切り、しごいてしごいて血を出します。ちよつと無理やり感あり。しかもマウスを暖めたほうが血がよく出るといふこととで、電気ヒーターであぶります。鼻に汗をかいたら採りごろ。そりゃ暑かろう。むしろ熱かろう。マウスが汗をかく光景はすこし衝撃でした。

〈T4RIA〉 放射能を使ってホルモンを計測するものです。封入瓶をつき破つて放射能が出まくつてます。面倒みてくれる若い先生にまかせて自分は安全なとこまで後ずさりしてます。つまり何もしていません。

・苦手な実験

〈除毛をする〉 背中にUVを照射する際、毛が邪魔になるので除毛します。使うのは除毛クリーム(人間用)。五分待つてふきとれば背中はずウルトウルです。何が嫌つてあまりにトウルトウルなので見ててなんかこつちがヒリヒリしてきます。あとクリームのパッケージの女の人の太ももに目がいきます。

〈UV照射する〉 RIセンター内の大きな電子レンジのよな機械で照射します。マウスをきれいに並べて入れて、時間になるとタイマーが鳴ります。はつきり言つて料理し

ている気分です。グロいですね、すみません。あと待ち時間が長いです。機械独特のブーンという音が眠気を誘います。電車のガタンゴトンという音みたいな感じですよ。

〈無菌操作〉 クリーンベンチという雑菌のいない空間で実験をします。すぐく神経を使う操作です。もし雑菌が入つたらそれまでの実験がすべて台無しになる訳だから緊張します。後ろからのポト部OBのN山先生の鋭い眼光がさらに緊張を高めます。手袋の中の手は汗ばんですべつて、ものをぼろぼろ落としてしまいます。本当にご迷惑をおかけしました。

雑感

三年 長 哲太郎

ついに幹部年。というか、現役時代もあと一年と考えると、すぐく短かつたポト部人生ですね。まあ、まだまだ、これからが一番しんどい時期だと思ふんですけど(笑)しかも主務つて、ある意味雑用だけど、しつかりしなきゃ遠征にも行けません、頑張ります。

来シーズンには、引き続き、けが人〇運動を推し進め、Aだけでなく、部全体の雰囲気も大切にしていきたいと思ひます。キャップの高橋君や、イベント係の日野君が、そこ

らへんのケアを頑張ってくれると思いますんで、楽しみです。やっぱ、頑張るところは頑張つて、羽目を外すところは、思い切りはずすという、この部の魅力は引き継いでいきたいです。

雑感

三年 日野 直之

以前大場さんとオートボックスに行つたことがあり、そこで車のシートの背もたれに置くクッションがセールで安く売つていたので買つてみました。このクッションにはスイッチが付いていて、プラグを差し込んでスイッチを入れるとクッションが振動して腰をマッサージしてくれるという優れものです。なかなかおもしろくて気に入つたので、このクッションを買つてからはずっとプラグを入れっぱなしにして、頻繁に腰マッサージしていました。

それから数カ月後、なんでか夜に男三人で稲佐山の展望台までドライブに行つたことがありました。稲佐山展望台からの夜景を見た後、帰ろうとして車に乗り込んで発進しようとしたのですが、急にエンジンがかからなくなつてしまいました。なんと稲佐山頂上というところでもない所で車が故障してしまつたのです。色々手を尽くしても治らなくて、どうしようかと途方に暮れていたら、なぜか梅田の車

が近くに置いてありました。梅田もたまたま稲佐山に来ていたみたいで、電話で呼び出してみたら、梅田も男ばかりで来ていました。梅田達とも相談したところ、結局JAFを呼ぶことにしました。JAFに診てもらつたら、原因はバッテリーがもうダメになつてるとのことでした。まだ購入してから四、五年たつてるわけでもないのにバッテリーが使えなくなるのはおかしいらしく、なんでこんなことになつたんだろうと思ひました。とりあえず、この日はバッテリーを充電してもらつてなんとか家に帰り、次の日修理に持つていきました。故障の理由が見当たらなかつたから、ただで修理してもらえないかと思つて、メーカーの人に強気に説明して車を見てもらいました。そしたら、「クッションのプラグを入れっぱなしにしてるのが良くなかつたみたいですね」と言われました。スイッチ入れなくても電気を消費していたらしく、そのせいでバッテリーが一年ちよいで使えなくなつたらしいです。結局ただで新しいバッテリーに代えてもらえましたが、なかなか恥ずかしい思いをしました。それ以来腰マッサージは使つてません。

雑感

三年 山本 悠造

特に書くこともないので、今年の新歓コンパの思い出で

のかいまだに分からないままである。パンツ一枚で騒ぎまくり、日本海庄やの二階席の他の客をみんな追い出してしまった。そのままの恰好でウロウロしていた私はすぐに取り押さえられ、ソファアに寝かされるや急性アル中でガタガタ震えだした。店を出ても看板をゲロまみれにし、あの時はほんとに死ぬかと思いました。連れて行かれた病院で点滴を受けて回復したが、その後で治療代請求の電話がかかってきた。二週間ほど全く忘れて過ごしていると、再び病院から「早く払いに來い」と電話がかかってきたので、これはマズイと思い慌てて払いにいったが、事務のお姉さんは笑顔で対応してくれたのでほっとした。ご迷惑をおかけした方々、すいませんでした。

雑感

二年 梅田 雅孝

部内でひそかに人気を集めている人気バンド「モスト」のメンバー高橋一臣先輩から「こんなモチなさそうなバンドは死んでもはいたりたくない！」とまで言われたポート部純正という驚きのバンドの実態に迫ります。

Vo 濱口陽

Gt 梅田雅孝

Ba 三反田拓志
Dr 大橋和明

見ての通りほとんど素人です。でも本当に組んじやいました！ちゃんとやります！…きつと。

曲はアジカンとかブルーハーツとか、僕ら練習してるスタジオなんかみんなが来てくれたときには楽しく暴れてストレス発散して帰ってもらえるようなやつをやる感じですよ。

少しはうまくなってきたら遊びに來てください。

雑感

二年 古賀 俊充

シングルスカルを漕がせて頂いている二年の古賀です。今回の雑感は軽視されがち、というよりは衰退の一途をたどるシングル部門について書こうと思います。シングルスカルとは一人で両舷を担当（スカルオールと言います）し、ひたすら一人で漕ぎ続けるというのは皆さんもご存知だと思いますが実際にシングルをしっかりと漕いだことがある人はどのくらいいるのでしょうか？フォアが主流の西医体では今ひとつパツとしないのですが、一般の大会ではフォアに

も劣らない人気があります（一般の大会ではエイトが主流なのですが）。

それに他大学ではどんな種目の漕手でもシングルが漕げることは常識ですし、オフシーズンはクルーを解散してシングルを漕ぐ大学が多いようです。それはやはりシングルが一番自分の漕ぎを見つめることができるからだと思いません。なんと書いても少しでもバランスを崩すような漕ぎをするとは沈しそうになります。フォアでは分からないようなちよつとしたバランスの乱れもシングルでは致命的になりかねません。逆にシングルがしつかり漕げるようになればフォアに乗った時にもそれが活かされるということですが、バランス以外にもフォアに活かされることは多くあると思うのですが、私がシングルに乗り続ける最大の理由が艇の反応性にあります。シングルはとても小さいので自分が上手く水を掴んで押せているときは凄まじいスピード感を体感することができません。私はそのスピードに乗っていると気がとても好きで、シングルに乗ってからますますポートが好きになりました。皆さんも一度体験してみてくださいでしょうか？めっちゃ楽しいですよ！沈しても責任は負えませんけど・・・

最後に今シーズンはシングルに乗って一ヶ月しか練習ができず非常に不完全燃焼だったんですけど、来シーズンは

必ず優勝したいと思います！

二年生になった僕チン

二年 友延 寛

今「あいのり」を見終わって書いています。二解剖の再試まであと五週間を切りました。TKがMIEに告白していました。そしてまだヒデが存在していました、長いね、あの男。僕は二年生になって二回コンにつれていました。歯学部の子とは王様ゲームをしました、楽しかったなあ。薬学部の子とは花火をしました、きれいだったなあ、雨の中、高架下で。そういえばいつの頃からか「のべチン」と呼ばれるようになっていました。そして極めつけは「う〇ち〇ち〇」あれにはホントまいりました。長大祭ではひたすらクレープの皮を焼いていました。高橋さんのバンド「MOCIT」。よかったなあ・・・。なんかせつなくなりました。

ちよつとここでナウシカについて語りたと思います。みなさん映画でナウシカがメーヴェに乗っているとき、興奮した覚えはありませんか？いえいえきちんとスポンをはいてますよ。瘴気マスクにはかつての遺伝子工学が生んだ薬草トリツマ草の炭が入っており、それで空気を浄化しま

す。そもそもナウシカとはギリシアの叙述詩オッデユッセイアにでてくるパイアキアの皇女の名前であります。また腐海にあつてはどのような菌類も単体では存在しない、ムシゴヤシにも何十種類もの菌類が寄生し一つの宇宙観がある。ムシゴヤシは王蟲がこのんで食べるのでこの名がある。私が一番感銘を受けた場面はナウシカが巨神兵に名前をつけた場面であります。「わたしは風の谷の族長ジルの子ナウシカ、そなたはナウシカの子オーマ。」「オーマは光輪を帯びし調停者にして戦士・・・そして裁定者。」の場面であります。ちなみにオーマとは古代エフタル語で無垢なるものという意味であります。まだまだナウシカについて書きたいことはありますがこころ辺にします。

ふーっ、ギンギラギンにさりげなく生きてみようかなあ。明日は朝長杯の朝練があるらしい・・・よーっ。まじがんばらんば。

雑感

二年 濱口 陽

今年の夏はとても暑い夏でした。今年の西医体の思い出を今のうちに書いておこうと思います。

大会前日。この日は合宿をしていました。明日からついに本番。福島さんのもと、練習はかなりきつかったけどやっ

とこの三日でその努力が報われる日が来るなと緊張と期待が同時に心の中で入り混じっていました。思い返せば、ほんとボートボートボートの半年だったような気がします。けっこう練習したような気がします。一口に練習といつてもいろんなことがありました。調子がいいときのあのスピード感。ライパをしててもめちゃくちゃ速いんです。あの感覚はAクルーでしか味わえないかもしれません。とても感動したことを覚えています。反対に調子が悪いときは、ぜんぜん艇が進まないときもありました。昨日までちゃんと進んでいたのに、なんで!?!と思いました。いつもどおりに漕いでいるはずなのに、艇はいつもどおりに進まない。きつと漕ぎ手の微妙なズレが艇をそうさせていたんですかね。俺のせいなんだろうなと悩んだこともありました。でもやつぱりAクルーのプレッシャーはずっと感じていたかな。Aが負けるわけにはいかないですね。ま、練習ばかりしてたけど、けっこう楽しい日々でした。そんなことを振り返りつつ、大会前日は過ごしていました。そして、突然笠原さんが入院というニュースが飛び込んできました。びっくりしました。確かに元気ないとは思っていましたが、びっくりしました。確かにも四〇度近く熱があるので、炎症値が一三。それを聞いたとき、今回は棄権なのかなと思いました。でもこれまでみんなががんばってきたんだからそれでもいいかなと思いました。大会一日目、今日は試合できないだろうなと思っていたところ、笠原

さんが来ると連絡がありました。さすが超人！俺だったらそんな状態じゃ絶対一〇〇〇m漕げないと思います。それなのに来て試合をしようとする笠原さんに尊敬の念を覚えつつ、試合をするためにモチベーションを上げるため集中しました。西山さんや村田さんと「試合に出れるって嬉しいね」と話をしました。こんな中、福島さんは「出るからには優勝するからね」と檄を飛ばしていました。さすがやね。笠原さんが到着し、アップをして予選をしました。いつものスピードは出なかつたけど、何とか滋賀のAクルー「飛騨」に続いて二位通過でした。大会二日目、笠原さんの状態も昨日よりは落ち着きました。もちろん本調子ではないでしょうけど、気持ちは大丈夫みたいでした。今日は準決勝。対戦相手は浜医のA「湍」、去年優勝した宮崎のA「日向Ⅲ」、熊本のA「竜神」、そしてうちのB「蓋世」。なかなかの相手です。「蓋世」も俺らに勝つ気満々だったし。今日が山場だと思いました。とりあえず試合に集中しました。「鵬翼」が準決勝で負けるわけにはいかないから、試合が始まり、ひたすら必死で漕ぎました。漕いでいると、福島さんの「今、湍、日向Ⅲに続いて三位、蓋世も来てるよ！蓋世もあげてきた！」という声がしてきました。その声でがんばらなければ！と思ったのを覚えています。半年一緒の場所で練習してきた蓋世が迫ってきていたのは、嬉しい反面負けられないという気持ちで漕いでいました。ゴールしみて、「湍」「日向Ⅲ」に続いて三位でした。この後、ほっ

として「メダル取りたいな」と言ったら「優勝じゃなきゃ許さんよ」と福島さんに言われました。ま、確かにそうやね。そのためにがんばって来たんやし。ちよつと弱気になつてたかな。そのときちよつと気合を入れなおしたような気がします。その夜カツカレーを食べました。勝つためにね。大会最終日。決勝の日です。泣いても笑つても今日が最後。このクルーで漕ぐのも最後です。なんか複雑な気分ですね。残念な気もするし嬉しい気もする。だつて西医体の一般シエルフォアの決勝なんて夢の舞台ですよ。一年前からは考えられません。去年、なんて速いんだろうと思つていた艇と今肩を並べている。「日向Ⅲ」や「湍」や「飛騨」や「天風」。ついにここまで来たんだなと思つていました。このレースで勝てば優勝！がんばらないと損やね。決勝前はそんな気持ちだつたかな。意外と落ち着いていました。今さらじたばたしてもしょうがないです。自分たちの力を信じました。一回やり直しがあつた後、レースが始まりいつもの福島さんの声が響いていました。途中バランスをくずして遅くなつたけど、何とか立て直しました。途中は必死で漕いで、ほんと死にそうになりました。始め結構負けていたけど、途中から合つてきていつものスピードが出てきたように感じました。俺はボートの試合、スタートからゴールに向かうとき、近づけば近づくほど歓声が大きくなるのが好きです。さすが西医体の決勝。このときは歓声がひとときわ大きかった。もう感動するほどに。歓声がだんだん大き

くなり、ゴールが近づいているんだなと思いました。このとき西山さんと村田さんが「笠原がんばれ!! 笠原あげろ!!」と必死で言っていました。福島さんも声をからしながら叫んでいました。これを聞きながら、俺はひたすら漕いでいました。ゴールして、戻りました。なかなか判定が難しかったらしく、なかなか結果は出ませんでした。それを待ちつつ、最後のミーティングをしました。このときはみんな大泣きでしたね。思い思いのことをそれぞれ言い合いました。ほんと感動したなあ。このミーティングのときに結果が出ました。三位でした。銅メダルやね。結果は残念だったけど、それ以上のものを得た半年だったと思います。「鵬翼」にも乗れたし、福島さん、笠原さん、西山さん、村田さんと一緒に艇に乗れて光栄でした。ほんとうにありがとうございます。一生忘れないと思います。ちよつと長くなつたかな。夏の思い出はこのへんで。

雑感

二年 松岡 若利

今シーズンから正規のCOXになります。Bクルーを率いていきます。オフシーズンにCOXを始めたのですが、やってみてからわかりました。むずい。何やっていいかわからん。そんな感じですよ。特にトップコックスとなればな

をさらす。Bクルーに乗りそうなメンバーもエルゴではなかなかタイムを残してしますので、メンバーの力を無駄にしないように、最大限に引き出せるようにがんばっていきたいです。プレッシャー、あります。九山、九朝、県漕、西医体。大会はたくさんあります。何といつても結果を残せるようにしていきたいです。先輩方にはいろいろと御世話になるかとは思いますが、よろしくお願いします。

ガンダムのすすめ

一年 岩津 伸一

機動戦士ガンダム・・・、私が生まれる前から存在し、今もなお、人々を魅了し続ける。私はこの年になってガンダムと出会い、そして魅了された。アムロがガンダムに乗ってから宇宙に消えるまでを網羅したが、ここで問題が一つ生じた。ボート部のみんなってガンダムについて知らな過ぎない？あれほどの名作を見ないなんて人生の三〇%は損してるね。ハウルなんてみてないでこっちを見たらいいのに。順番としては、

ガンダム劇場版↓Zガンダム↓ZZガンダム↓逆襲のシャア
全部DVDで見れるので是非。

雑感

一年 上木 智博

ボート部に入部して約半年。そこには運命的な出会いではなく、「必然的」な出会いがあった気がする。振り向けばそこにボートがあった。

私が小学校四年から六年まで住んでいた鹿児島県の沖永良部島。そのときよく行っていた病院が朝戸医院である。院長の朝戸先生はボート部を創設した一員であった。

私が卒業した鹿児島県の池田高校。今考えると、この高校から医学部に進学するとボート部に入部する確率が非常に高い。ボート部員が、佐賀に三人、産業に二人、福大に一人いる。現在ボート部一年の三反田も中学からの同級生だ。

長大に入学してすぐ行われた島原合宿。デイベートの班にいたのは、現在ボート部一年の岩津と大橋。担当の先生はボート部の出身である黒木先生だった。

勧誘の試乗会以来、私が今年ずっと乗艇しているのが「雄図」である。西医体で優勝したことのある名馬ならぬ名艇である。雄図とは「壮大な計画」の意。私の約二十年間の人生もなんらかの計画の一部であるのかもしれない。この先に待ち受けているものとは果たして何なのか。

その答えを求め、明日もまた、子々川の海へ 滑り出す。

雑感

一年 大橋 和明

ボート部に入部して早くも半年がたちました。その間、僕の周りでいろいろな事が起きました。どれもこれもボート部でなければありえないことばかりです。今までの人生ではありえないことばかりです。学校では勉強できない大切？なことばかりです。例えば：（中略）：などです。これから一生かけて勉強したいと思います。

近況

一年 三反田 拓志

最近なんらかの病気ではないか、と思うほど体がだるくなった。熱はなく、食欲も旺盛。風邪のひき始めのような感覚だが、風邪ではなさそうな気がする。怖い。このことをボート部のうさんくさい男こと、岩津君に電話相談を試してみた。岩津いわく、「それは恋か鬱だな」と。「んなアホな」と思ったが、そんな時は飲むべし、という強引な結論に至る。時すでに二十三時。ココリコ田中にブルースリーを掛けたような顔の彼とサシで飲むのもいいが、どうせならということボート部一年を全員召集してみた。まあ、一人

くらいはくるだろ：いや甘かった、全員きた。諸事情により六人で飲みがスタート。うち四人は自分を含めたしよっぱい男どもだ。しかし、敗者は勝者を散々ネタにし、杯を重ねていく。これから四人で力をあわせて合コンがんばろうね。へたれコックス（〇橋君）なんていらねえぜ！まったく、ボート部一年は全員個性派ぞろいで、団結していて、アツいと思う。

漕ぐとは・・・

一年 中原 知之

初めて艇を漕いだとき、単純な動作だと思った。

正直、面白味もなんにもわかなかつた。

でも、漕ぐたびにその奥深さに気づき、合つたときの快感を知っていく。

正直、漕ぐことはつらい・・・

でも、このつらさが、何か壁にぶちあつたとき、乗り切る力になると信じ今は漕いでいる。

平成 16 年度長崎大学漕艇部OB会収支報告

収 入		備 考
前期繰越	1,696,487	
会 費	2,160,000	
寄 付	322,769	新艇および30周年レセプションへの寄付
表 彰	100,000	医学同窓会表彰
部誌広告・協賛	230,000	17社
預金利息	17	
部誌広告・協賛(未収)	160,000	*協賛依頼が平成18年2月のため9社未収
合 計	4,669,273	

支 出		
西医体遠征費	27,300	西医体エントリー費
九山エントリー費	60,000	九山エントリー費
九朝レガッタ遠征費	300,000	九朝エントリー費
部誌経費	180,840	
新入生勧誘費・追コン	200,000	
漕艇保険	209,630	
艇等購入費	1,963,700	新艇、オール、エルゴメーター2台等
艇修理代	36,750	TRITRON修理
通 信 費	20,165	切手、送金料等
雑 費	1,071	封筒、領収証代
会費手数料	6,340	
次期繰越	1,663,477	
合 計	4,669,273	

第一条

本会は長崎大学医学部漕艇部OB会と称する。

第二条

本会の事務所は、長崎大学医学部漕艇部に置く。

第三条

本会の目的は、漕艇部の円滑な運営の為に、精神的、物理的な援助を行い、あわせて部員の身体の練成ならびに陶冶を図り、会員相互の親睦をはかるものである。

第四条

本会は、漕艇部のOBからなる一般会員ならびに本会の主旨に賛同する賛助会員をもって組織する。

第五条

本会に下記の役員を置く。

- (1) 会長 一名
- (2) 副会長 二名
- (3) 顧問 若干名
- (4) 総務 若干名
- (5) 会計監査 一名

第六条

会長、副会長、総務、会計監査はOB会にて互選し、顧問は、会長が委嘱する。

第七条

役員の内任は、一年とする。ただし、再選は妨げない。

第八条

漕艇部顧問教官は、OB会に出席し、部の事情を説明しなければならない。

第九条

総会は、年に一度これを開くものとする。

第十条

本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもつて当てる。

第十一条

本会の経費は、一般会員より徴収し、会費は年度ごとに総会において決定する。

第十二条

本会の会計年度は、毎年四月一日より始まり翌年三月三十一日に終わる。

第十三条

本会の予算、決算は、総会の承認を得なければならぬ。

第十四条

本会には下記の帳簿を備える。

- (1) 会則
 - (2) 会員名簿
 - (3) 会計簿
- 第十五条 会則の変更は、総会の承認を得なければならぬ。

付 則

この会則は、昭和五十四年度四月一日から施行する。

(昭和五十五年三月二十二日改正)

長崎大学医学部漕艇部OB会会員名簿

氏名	勤務先	勤務先住所	勤務先電話番号	E-mail address 1	卒業年度
	自宅	自宅住所	自宅電話番号	E-mail address 2	
長西 靖	731-5127	長西耳鼻咽喉科医院: 広島市佐伯区駅前町1-11-37	082-923-8122		
	731-5125	広島市佐伯区駅前町1-4-5-811	082-923-5839		S46
冬野 誠三	847-0844	なばたけ冬野クリニック: 唐津市菜畑3660-1	0955-75-2220	Nabatake@star.sagamed.ne.jp	
	847-0845	唐津市菜畑4208-57	0955-74-7378	fuyuno@natsuronet.co.jp	S48
松本 恵一良	847-0846	松本内科クリニック: 堺市鳳西町1丁-92-2	072-264-0588		
	847-0847	大阪府高石市東羽衣4-5-4	072-264-8828	kema@violet.plala.or.jp	S49
峰 雅宣	854-0034	諫早市小野町332菅整形外科病院	0957-23-2388		
	847-0849	長崎市柳谷町4-13	095-847-6031		S49
朝戸 末男	891-9112	朝戸医院: 鹿児島県大島郡和泊町和泊14	0997-92-1131		
	891-9112	鹿児島県大島郡和泊町石川平14	0997-92-2280	sasato@nisiq.net	S50
内田 隆寿	859-4825	青洲会病院: 長崎県北松浦郡田平町山内免612-4	0950-57-2155		
	857-0135	長崎県佐世保市瀬戸口11-30			S50
桜井 一枝	720-0822	みつぶく小児科: 福山市川口町2-22-11	084-953-0307	kazuetsu@fukuyamahiroshimamed.or.jp	
	721-0952	広島県福山市曙町5丁目24-38	0849-54-4454		S50
瀬戸 信二	847-0856	長崎大学大学院総合研究科循環病体制御培化学	095-849-7288		
	852-8052	長崎市岩屋町17-2	095-857-1808		S50
早田 篤	847-0858	長崎市北保健センター: 長崎市川口町6-10	095-845-5151		
	847-0859	長崎市立岩町77-10	095-862-5622		S50
田川 泰	852-8520	長崎大学医学部保健学科: 長崎市坂本1-7-1	095-849-7900		
	851-2128	長崎県西彼杵郡長与町壇里郷98-12	095-887-1391	tagawa@net.nagasaki-u.ac.jp	S50
富海 五郎	791-8022	松山記念病院: 松山市美沢1-10-38	089-925-3211		
	790-0903	松山市東野1丁目6-15	089-977-1812		S50
中野 文耕	853-2301	若松国民健康保険診療所: 長崎県南松浦郡若松町若松郷281	0959-46-3315	0959-46-3318	
	853-2301	長崎県南松浦郡新上五島町若松郷281	0959-46-3318	0959-46-3315	S50
丹羽 正美	852-8523	長崎大学医学部第1薬理学教室: 長崎市坂本1-12-4	095-849-7041		
	851-2127	長崎県西彼杵郡長与町高田郷1613-4	095-883-6395	niwam@net.nagasaki-u.ac.jp	S50
馬渡 一雄	850-0001	まわたり内科医院: 長崎市西山2丁目9-2	095-822-0101		
	850-0001	長崎市西山2丁目9-2	095-822-0101		S50
石川 治	670-0936	石川医院: 姫路市古二階町135	0792-23-3270		
	670-0936	姫路市古二階町12	0792-23-1307		S52
川口 昭男	850-0045	井上病院: 長崎市宝町6-12	095-844-1281		
	847-0873	長崎市柳谷町14-27	095-847-6529		

神田 源太	854-0301	愛野記念病院：豊仙市愛野町甲3838-1	095-822-7051		S52
田中 精一	192-0904	八王子消化器病院：八王子市子安町3-18-1	0426-26-5111	s-tanakaka@x2.so-net.ne.jp	S52
	850-0003	長崎市片淵1丁目12-7	0426-51-7640		
堤 健二	830-0047	聖マリア病院久留米市津福本町422	0942-35-3322		S52
	839-0863	久留米市国分町1121-9アパルティメント分B-1	0942-22-3272	k-turtumi@mx2.tiki.ne.jp	
吉良 満夫	847-0880	浜崎外科病院：長崎市曙町3-6	095-861-6034		S54
	847-0881	長崎市曙町3-6	095-861-7431		
出口 正巳	530-0001	大阪市北区芝田1-14-7 大阪日産美容外科	06-4797-4000	masami@deguchi.neme	S54
	659-0012	兵庫県芦屋市朝日ヶ丘町17-46	0797-38-8077		
井上 健一郎	850-0045	井上病院：長崎市宝町6-12	095-844-1281		S55
	852-8102	長崎市坂本1-2-5	095-846-2218	ken-@inoue-hp.com	
小村三代治		～逝去～			S55
江口 圭介	857-0015	千住診療所佐世保市栄町5-26	0956-23-1010	drezuichi@hyper.ocn.ne.jp	S55
	857-0015	佐世保市松山町5-38	0956-22-2224		
成松 元治	811-0117	福岡県糟屋郡新宮町上府太郎丸675 (医法北里循環器科医院)	092-962-0022	narinatu@ngs1.cncm.ne.jp	S55
				narinatsui@mnc.hosp.co.jp	
水谷 明正	847-0890	長崎記念病院：長崎市深堀町1-11-54	095-871-1515		S55
	847-0891	長崎市タイヤランド1-36-19	095-879-3807	akimac@momo.so-net.ne.jp	
小倉 猛	866-8533	熊本労災病院：熊本県八代市竹原町1670	0965-33-4151		S56
		熊本市画図町重富744-13	096-379-7592	togura@lime.plala.or.jp	
谷川 宗生	847-0894	長崎北病院：長崎市滑石5-4-61	095-857-0001		S56
	847-0895	西彼杵郡長与町高田郷1196-122	095-883-4030		
難波 裕幸	847-0896	長崎大学医学部原研細胞：長崎市坂本1-12-4	095-849-7115	namba@net.nagasaki-u.ac.jp	S56
	847-0897	長崎県西彼杵郡長与町高田郷858-103	095-883-7541		
前原 洋二	835-0024	森整形外科：福岡県山門郡瀬高町大字下庄590	0944-63-2040		S56
	847-0899	福岡県久留米市津福本町786-6グラウンディアマンション津福1001	0942-37-5038	stadym@polka.plala.or.jp	
村山 晋	514-0043	遠山病院：三重県津市南新町17-22	059-227-6171	md-murayama@toyama-hp.or.jp	S56
	514-0003	津市桜橋3-446-50 アトリ桜橋608	059-222-5687	stellamurayama.0425@za.ztv.ne.jp	
山近 史郎	847-0902	長大附属病院心臓血管外科：長崎市坂本1-7-1	095-849-7307	shiyama@net.nagasaki-u.ac.jp	S57
	847-0903	長崎市参見町18-4	095-825-3580	shiyama@aurorad.ne.jp	
岡田 代吉	847-0904	おかだ外科胃腸クアニック：北九州市八幡西区三ヶ森4-9-24-202	093-613-7188		S58
	847-0905	北九州市八幡西区三ヶ森4-9-24ビートルラザ三ヶ森605	093-613-3732		

倉富 彰秀	847-0906	医療法人 輝秀会・佐賀県神埼郡神埼町田道ヶ里2435-1	0952-52-8841	soarer1956@wd.aiton.ne.jp	S58
	847-0907	佐賀県神埼郡神埼町田道ヶ里2435-1		posa-japan@msf.biglobe.ne.jp	S58
末永 俊郎	847-0908	末永産婦人科麻酔科医院：北九州市門司区門司6-15 北九州市門司区港町6-15	093-321-2453 093-322-1751	suetoshi@k.kij4u.or.jp	S58
中崎 隆行	852-8104	長崎原爆病院：長崎市茂里町3-15	095-847-1511		S58
	852-8102	長崎市坂本2-18-15	095-842-2391	nakazaki@topaz.ocn.ne.jp	S58
永見 耕一	758-0025	永見眼科医院：山口県萩市土原351	0838-22-0720		S58
				naegami@nagine.ne.jp	S58
永山 雄二	852-8523	長崎大学医学部原研分子教室：長崎市坂本1丁目12-4	095-849-7173		S58
	851-2126	長崎県西彼杵郡長与町吉無田郷579-40	095-887-2796	nakayama@net.nagasaki-u.ac.jp	S58
松永 伸彦	854-0072	まつなが眼科：諫早市永昌町43-1	0957-25-8866		S58
	854-0074	諫早市山川町12-14	0957-27-1333	matsuf@mocho.ocn.ne.jp	S58
松尾 圭一		～逝去～			S58
今里 雅之		～逝去～			S59
小林 誠博	803-0831	北九州市小倉北区日明（ひあかり）4丁目6-28 小林外科医院	093-561-6353		S59
	805-0016	北九州市八幡東区高見2丁目10番1-601	093-651-8786		S59
平野 友久	850-0953	上戸町病院：長崎市上戸町129	095-879-0705	tomuyuu@csr2.cncm.ne.jp	S59
	850-0963	長崎市ダイヤランド3-28-6	095-878-8913		S59
糸柳 則昭	852-8102	福田ゆたか外科：長崎市浜口町3-5	095-848-7151	itovanagi@nifty.com	S60
	851-2130	西彼杵郡長与町まなひ野2-18-2	095-887-4927		S60
日高 真	300-8585	国立霞ヶ浦病院：茨城県土浦市下高津2-7-14	029-822-5050	hidaka@kasumi.hosp.go.jp	S60
	300-1245	茨城県つくば市高崎692-5	029-873-3382	ccx00020@hkg.odn.ne.jp	S60
松岡 直樹	850-0832	後藤会病院：長崎市油屋町1-21	095-822-3151		S60
	850-0037	長崎市金屋町9-9-1301	095-829-4077	nmatuoka-nag@nagasaki.met.or.jp	S60
矢次 登	800-0344	小波瀬病院：福岡県京都郡埴田町大字新津字池ノ下1598	09-302-4-5211		S60
	810-0052	福岡市中央区荒戸2-2-5-803大濠1-10-24-601	092-762-5352		S60
高須 勝也	851-2126	営業会 長与病院：長崎県西彼杵郡長与町吉無田郷647	095-883-6663		S61
	859-0407	諫早市多良見町ツニーサ120-133	0957-43-2654		S61
中里 貴浩	816-0864	福岡徳州会病院消化器内科：福岡県春日市須玖北4-5	092-573-6622		S61
	811-2103	福岡県糟屋郡宇美町四王寺坂3丁目19-5	092-934-3648		S61
中山 大介	852-8102	長大附属病院産婦人科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7363		S61
	850-0048	長崎市上錢座町12-2	095-848-4575	nakayama@net2.nagasaki-u.ac.jp	S61

青木 幹弘	856-8562	国立病院機構長崎医療センター：長崎県大村市久原2丁目1001-1	0957-50-0956		S62
石井 久敬	831-0004	福岡県大川市榎津137-1 国際医療福祉大学リハビリテーション学部	0944-89-2000		S63
岡野 邦彦	852-8102	長崎県大村市植松2-426-7	0957-50-0956		S62
朝長 道生	843-0301	朝長医院：佐賀県藤津郡藤野町大字下宿22188	0954-43-2117		S63
中島 實彦	812-8582	九州大学医学部耳鼻咽喉科：福岡市東区馬出3-1-1	092-642-5668	nakatora@gentimed.kyushu-u.ac.jp	S63
天野 秀明	852-8055	福岡市城南区田島6-2-24	092-871-5238	mcoetmg@hotmail.com	S63
金色 正広	805-0061	北九州市立八幡病院麻酔科：北九州市八幡東区西本町4-18-1	093-662-6565	froatingymbr@ybh.ne.jp	H1
吉川 公正	804-0012	北九州市八幡東区西本町4丁目15-23-705	093-663-3055	chinu@ceres.dti.ne.jp	H1
旭 隆宏	874-0011	北九州市戸畑区中原東3-10-17	093-881-8181	kanairo@mars.dti.ne.jp	H1
白藤 智之	852-8125	北九州市若松区原町9-6	093-751-6528	cbq47591@pop06.odn.ne.jp	H1
寺尾 保信	113-8677	国立別府病院：大分県別府市大字内かまど1473	0977-67-1111	cbq47591@pop06.odn.ne.jp	H1
中村 晋	813-0042	大分県別府市大字内かまど1473国立別府病院官舎R-6-5	0977-27-9555	asahit@beppu.hosp.co.jp	H2
山本 太郎	100-8919	聖フランス病院：長崎市小峰町9-20	095-846-1888		H2
生田 安司	854-8501	長崎市泉1-3-4	095-848-0191		H2
市川 辰樹	852-8501	東京都立駒込病院：文京区本駒込3-18-22	093-3823-2101		H2
鈴木 康弘	860-8556	東京都港区高輪3-16-8-206	093-3443-5034	y.terao@ciq.jp	H2
田中 邦彦	852-8117	中村内科医院：福岡市東区舞松原1丁目6-18	092-681-7363	ryo-n@mii4u.or.jp	H2
		福岡市東区八田2丁目1-52 ヲエル子香椎南413	092-662-4414		H2
		千代田区霞ヶ関2-2-1 外務省経済協力局	03-5501-8363	taro-y@pbh.med.kyoto-u.ac.jp	H2
		杉並区高井戸東3-3-14-407	03-5370-0939	TaroY0103@aol.com	H2
		健康保険諫早病院：諫早市永島東町24-1	0956-22-1380	yikutata@net.nagasaki-u.ac.jp	H3
		諫早市八天町1-11-301	0957-21-2512	yikutata@clin.medic.mie-u.ac.jp	H3
		長崎大学付属病院 第一内科：坂本1-7-1	095-847-1511	ichikawa@net.nagasaki-u.ac.jp	H3
		長崎県長崎市茂里町3番15号	095-843-1470		H3
		熊本大学第二内科：熊本本荘1-1-1	096-344-2111		H3
		熊本市帯山2-5-74	095-849-7043	totoro.64@yahoo.com	H3
		長崎大学医学部第一薬理：長崎市坂本1丁目12-4	095-845-8355	kurny-ta@net.nagasaki-u.ac.jp	H3
		長崎市平野町14-2 パーラーベニユー平野107号		kurny@xdf6.so-net.ne.jp	H3

山本 修	850-0004	山本外科医院：長崎県長崎市下西山町1-5-1F	095-823-8585				
	850-0015	長崎市矢ノ平二丁目2-23	095-824-4600				H3
劉 中誠	825-0065	田川市立病院：福岡県田川市大字糠700-2	0947-44-2100				
	825-0004	福岡県田川市夏吉197-1 医師住宅2号	0947-45-4956			oryu@ruby.ocn.ne.jp	H3
黒木 保	852-8102	長崎大学移植消化器外科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7316			tkuroki-gi@umin.ac.jp	
	852-8501	長崎市城山台1-42-11-403				koromoto@tt3.so-net.ac.jp	H4
佐藤 俊一	380-0922	長野赤十字病院：長野市若里5丁目22-1	026-226-4131			ssato@nagano-mei.jrc.or.jp	
	380-0803	長野市栗田202-1カサツイーナA1-103	026-228-3552			shunichi@eb.mbn.or.jp	H4
趙 成三	852-8102	長大附属病院麻酔科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7370			chos@net.nagasaki-u.ac.jp	
	852-8061	長崎市滑石5丁目4-80-404	095-856-3793				H4
津田 純	154-0014	津田耳鼻咽喉科：世田谷区新町3-20-1 ヲエルジエ桜新町206	03-5450-7237				
	154-0014	世田谷区新町3-25-12	03-3439-7759			yunikaya@mx9.tten.ne.jp	H4
中野 基	852-8102	長大付属病院形成外科：長崎市坂本1丁目7-1	095-841-7441			mnakanoo@rascal.med.harvard.edu	
	852-8116	長崎市平和町28-15-201	095-844-1281				H4
福井 雅士	850-0045	井上病院：長崎市宝町6-12	095-861-3693			fukuimanasashi@clubaa.com	
	852-8015	長崎市善木町302-43					H4
南 恵樹	852-8117	長崎市平野町8-17-302	095-846-8660				
竹下 浩明	852-8501	長大医学部附属病院第外科：長崎市坂本町7-1	095-849-7304				H4
	852-8102	長崎市坂本1丁目13-53 アサヒツインハイツ503	095-843-4444			hiro-t@fsinet.or.jp	H5
近藤 新二	852-8523	坂本1丁目12-4：長崎大学先端生命科学研究所支援センター	095-849-7191			kondos@net.nagasaki-u.ac.jp	
	850-0001	長崎市西山4丁目511-301	095-844-7177				H6
高藤 智隆	805-0012	北九州市立八幡病院：福岡県北九州市八幡東区西本町4丁目18-1	093-662-6565			saito@yahata.h.jp	
	805-0016	福岡県北九州市八幡東区高見町1-2-25-209	093-653-2246				H6
阪上 学	565-0871	大阪大学医学部付属病院 麻酔科：大阪府吹田市山田丘2-2	06-6879-3133			sakaue@anes.med.osaka-u.ac.jp	
	662-0976	兵庫県西宮市宮西町14-13ファミール風川508	0798-37-1475			sakaue@ff.jfu.or.jp	H6
松尾 敬明	894-2322	加計呂麻徳洲会診療所：鹿児島県大島郡瀬戸内町瀬相747-1	0997-75-0116			mariton@tong@yahoo.co.jp	
	894-2322	鹿児島県大島郡瀬戸内町瀬相747-1	0997-75-0373				H6
岩井 敬郎	820-8505	飯塚病院 心臓血管外科：福岡県飯塚市芳雄町3-83	0948-22-3800			tiwai@heart.med.kyushu-u.ac.jp	
	814-0002	福岡市早良区西新2丁目20-1-402	092-821-7225				H7
宗 英吾	852-8501	長崎大学付属病院 耳鼻科	095-826-2472				H7
	850-0871	長崎市廻屋町2-13だるまビル303					
中楠 了太	852-8523	長崎大学医学部第1薬理学教室：長崎市坂本1-12-4	095-849-7043				
	852-8123	長崎市三原町42-2-202	095-846-6999			nakaake-ngs@umin.ac.jp	H7

藤本 武士	825-8567	田川市立病院:福岡県田川市大字橋1700-2	0947-44-2100	ttulimotoveros@rta:44kay@stn.oxymz	H7
	825-0005		0947-44-2100		
安田 恵多良	560-0021	やすだクリニック:大阪府豊中市本町2-4-28	06-6531-1815		H7
	560-0045	大阪府豊中市刀根山6-2-5	06-6531-3133	gentaro999@yahoo.co.jp	
古賀 洋安	830-0011	久留米大学小児科:福岡県久留米市旭町67	0942-31-7565	hirokko@mx6.tiki.ne.jp	H8
城田 利彦	812-0054	九州大学附属病院心臓外科:福岡市東区馬出3丁目1-1	092-642-6942	tsuhirota@medenka.med.kyushu-u.ac.jp	H8
	810-0062	福岡市中央区荒戸2-2-5-803	092-751-7765		
関 徹	984-0075	仙台市立病院:仙台市若林区清水小路3-1	022-266-7111	QWP07174@nifty.ne.jp	H8
	981-0914	仙台市青葉区堤通雨宮町2-38-1101	022-274-6311		
武野 正義	852-8102	長大付属病院第3内科:長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7288	mtakeno@net.nagasaki-u.ac.jp	H8
	852-8017	長崎市岩見町31-10-401	095-862-5184		
福田 顕三	838-0141	篤田病院外科:福岡県小都市小郡217-1	095-842-1158		H8
	852-8157	長崎市泉2丁目1-23			
山里 昌司	825-8567	田川市立病院:福岡県田川市大字橋1700-2	0947-44-2100		H8
	825-0002	福岡県田川市榎ヶ丘7組医師住宅11-A	0947-45-3025		
岡 真一郎	870-0857	大分公立病院:大分市明礪四組	097-543-1177		H9
	870-0814	大分市南王子町2丁目8-6サービス学園前201	097-546-0460		
岡田 和一郎	440-8510	豊橋市飯村町字高山11番地 国立療養所豊橋東病院	0532-62-0301		H9
	440-0033	愛知県豊橋市東岩田4丁目5-1Aの301	090-1625-8528		
牟田口 滋	839-0801	久留米市宮ノ陣3丁目3番8号 古賀病院21	0942-38-3333		H9
	839-0817	福岡県久留米市山川町3-6クリアハウス201号	0942-44-3064	shigemuta@vbn.ne.jp	
大石 正雄	904-8585	中部徳州会病院:沖縄市照屋3-20-1	098-937-1110		H10
	806-0023	北九州市八幡西区八千代町1-14 クレバール八千代306	093-645-0638	moishi999@hotmail.com	
古賀 聖士	852-8102	長大付属病院第2内科:長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7274		H10
	850-0056	長崎市恵美須町2-25-1003	095-825-7505	korase@mac.com	
崎元 暢	173-8610	日本大学医学部眼科:板橋区大谷口上町30-1	03-3972-8111	torusaki@med.nihon-u.ac.jp	H10
	108-0072	港区白金2-7-17-1102	03-3443-3313	toruotto@mwe.biglobe.ne.jp	
山崎 励至	852-8102	長大附属病院研研内科:長崎市坂本1丁目7-1	095-814-6446	reishi@net.nagasaki-u.ac.jp	H10
	851-2127	西彼杵郡長与町高田郷151-61		yuihika@pop16.odn.ne.jp	
高橋 優二	810-0001	済生会福岡総合病院:福岡市中央区天神1-3-46	092-771-8151		H11
	811-1344	福岡市南区三宅1-1-23-601			
谷川 治	066-0021	北海道千歳市東郊1-4-18 千歳皮膚形成外科クリニック			H11
	066-0066	北海道千歳市大和1-1-18-608			

牧野 淳	130-8575	都立豊東病院: 東京都豊田區江東橋4-23-15	03-3633-6151	makinet@it7so-net.ne.jp	H11
	130-0022	東京都豊田區江東橋4-23-15-323	03-5624-5098	lmakino@ma5justnet.ne.jp	H11
宮崎 浩充	980-0257	東北大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科			
	981-3133	仙台市泉区泉中央3丁目7-8ガ一丁目ラザ泉中央401	022-773-4866	hiro-m@ye7so-net.ne.jp	H11
山本 経之	800-0257	北九州総合病院: 北九州市湯川5丁目10-10	093-921-0560		
	800-0257	北九州市小倉南区湯川5-7-7-401	093-952-4622	cds30130@syd.odn.ne.jp	H11
吉野 俊平	820-8505	福岡飯塚病院: 飯塚市芳雄町3-83	0948-22-3800		
	820-0005	飯塚市新飯塚6-6-607	0948-23-8550	syosh126@aol.com	H11
渋谷 正樹	755-0067	山口大附属病院第2内科: 山口県宇部市南小串1-1-1	0836-22-2653		
	755-0035	宇部市西琴芝2丁目10-23-203	0836-29-0428	bo8m-sbv@asahi-net.or.jp	H12
土井 晋平	671-2576	栄栗(しそ)郡山崎町鹿沢93 公立栄栗総合病院			
福田 義文	651-1242	神戸市北区山田町上谷上字壺り尾3番地兵庫県立光風病院	078-581-1013	a807445@moccone.jp	H12
	651-2274	神戸市西区竹の台4-21-5	078-991-5883		
程野 茂樹		愛媛大学眼科			
	799-3111	愛媛県伊予市下吾川676-1	0899-83-3504		
松永 祥志	856-8562	国立病院機構長崎医療センター: 長崎県大村市久原2丁目1001-1	0957-52-3121		
	856-0835	大村市久原2-1241-1-102			
及川 将弘	857-8511	佐世保市立総合病院: 佐世保市平瀬町9-3	0956-24-1515		
	857-0863	佐世保市三浦町2-1アルファビル1213	090-1167-8282		
森 創	850-8555	長崎市民病院小児科: 長崎市新地町6-39	095-822-3251	mailto:neomoriso@k2.dion.ne.jp	H13
	850-0924	長崎市出雲1-8-36 805号		mailto:neomoriso@ezweb.ne.jp	H13
ウイ ケアセンター	253-0052	茅ヶ崎徳州会病院: 神奈川県茅ヶ崎市幸町14-1	0467-85-1122		
			090-9408-8805		
松本 周平	852-8102	長崎大学付属病院麻酔科: 長崎市坂本1-7-1	095-849-7370		
諸藤 陽一	852-8102	長崎大学付属病院脳神経外科: 長崎市坂本1-7-1		yoichi51@hotmail.com	H13
蓮菜 彰士	852-8102	長大医学部第1薬理学教室: 長崎市坂本1丁目12-4			
	852-8116	長崎市平和町8-23/V-クサイド平野町202	090-1369-5720		
青山 英和		山口大学大学院医学研究所応用医学系	0837-23-0033		
	496-0923	愛知県豊西市柳江町字郷中10奥村組社宅B305	0567-32-2553		
西條 知晃	852-8102	長大付属病院第2内科: 長崎市坂本1丁目7-1			
	852-8116	長崎市平和町20-16エソジェルコート白川201	095-848-9751		

高木 理博	852-8055	虹ヶ丘病院：長崎県長崎市虹ヶ丘町1-1	095-856-1112	rinhaku1@mizar.freemail.ne.jp	H14
田辺 孝大	857-0134	長崎労災病院：佐世保市瀬戸越2-12-5	0956-49-2191		H14
渡辺 康平	980-8574	佐世保市瀬戸越2-13-25 西8-401			
	980-0824	東北大学付属病院小児科：仙台市青葉区星陵町1-1	090-7549-9602	nabe-76@eagle.ocn.ne.jp	H14
崎元 晋	565-0871	仙台市青葉区支倉町4-27 TC支倉601号			
	562-0014	阪大付属病院眼科大阪府吹田市山田丘2-2	072-721-2663		H15
猪狩 圭介	856-8562	大阪府箕面市董野2丁目3-5-202			
	856-8562	国立病院機構長崎医療センター：長崎県大村市久原2丁目1001-1	0957-52-3121		H16
近藤 学	856-8562	大村市久原1001-1 あかしや荘305号			
	756-0095	山口県山陽小野田市小野田1315-4	0836-83-2881		
	755-0049	山口県宇部市西琴芝2丁目2-5-302	0836-35-2524	rolp00307@hotmail.com	H16
田浦 康明	852-8102	長崎大学付属病院第一外科：長崎市坂本1-7-1	095-822-3251		
	852-8116	長崎市平和町9-2-402	095-847-7336	leuchten@rio.odn.ne.jp	H16
豊田 啓介	852-8102	長崎大学付属病院脳神経外科：長崎市坂本1-7-1	090-7150-6905	enzokun355@ybb.ne.jp	H16
山口 仁平	852-8102	長崎大学付属病院耳鼻咽喉科：長崎市坂本1-7-1	0956-33-7151	yhinpei@hotmail.com	H16
吉武 記一	755-8505	山口大学医学部附属病院：山口県宇部市南小串1-1-1	0836-22-2129		
	747-0836	山口県防府市大字植松1799	0835-29-0363	kiichi_12_23@yahoo.co.jp	H16
高田 潤	533-0032	大阪市東淀川区淡路2-9-26 淀川キリスト病院	06-6322-2250		
	533-0033	大阪市東淀川区中豊6-8-18淡路ツングルハイイツ108	06-6320-4075		H17



プロトンポンプ・インヒビター

オメプラール錠10/20

Omepral[®] Tablets 10・Tablets 20 オメプラゾール錠

指定医薬品, 処方せん医薬品^{※1)} 薬価基準収載

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

プロトンポンプ・インヒビター

オメプラール® 注用20

Omepral[®] Injection 20 オメプラゾールナトリウム注射剤

指定医薬品, 処方せん医薬品^{※1)} 薬価基準収載

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、各製品添付文書をご参照下さい。

製造販売元(資料請求先) アストラゼネカ株式会社 大阪市北区大淀中1丁目1番88号

2005年4月作成



がんばるあなたに、アリナミン効果。

アリナミンVは、エネルギー産生に役立つ
ビタミンB₁誘導体フルスルチアミン、ビタミンB₂・B₆などを
配合したドリンク剤。カラダが疲れた時によく効きます。

アリナミン®V

肉体疲労時の栄養補給、滋養強壮に 50mL [医薬部外品]

インターネットで、健康・ビタミン情報を公開中! alinamin.jp

武田薬品工業株式会社 ヘルスクアカンパニー 〒103-0568 東京都中央区日本橋二丁目12番10号



シオノギにはSONGがあります。

歌が人々を励まし、元気つけてきたように
くすりが人々の心とカラダを立ちなおらせてきたように
歌とくすりは、どちらも人を癒すチカラを
もっているとおもうのです。

誰もが明るくすこやかに毎日をすごせるために
私たちは、これからもより良いくすりをつくっていきたい。
そんな想いをこめて、あなたのために。

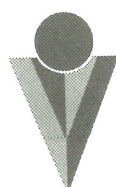
SONG for you. シオノギ製薬です。

 **シオノギ製薬**
http://www.shionogi.co.jp/



 NOVARTIS

THE ARB DIOVAN

選択的AT₁受容体ブロッカー 薬価基準取載
 **ディオバン錠** 160mg 80mg 40mg
指定医薬品 処方せん医薬品 注意-医師等の処方せんにより使用すること
DIOVAN バルサルタン錠

●禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意については、製品添付文書をご覧ください。

製造販売 (資料請求先)
バルティス ファーマ株式会社
 東京都港区西麻布4-17-30 〒106-8618

NOVARTIS DIRECT
 ☎0120-003-293
 受付時間: 月~金 9:00~18:00
 www.diovan.jp



生薬三十一種配合 医薬品

ナンパオ®

【効能】 中年期以降における
疲労倦怠感を伴う腰痛・肩こり

【用法・用量】 成人1回2カプセルを1日2回、
朝晩食後に服用

- 商品についてのお問い合わせは、
田辺製薬(株)「お客様相談センター」☎0120-54-7080
(弊社営業日の9:00~17:30)
- ナンパオのお買い求めは、全国の薬局・薬店でお願いたします。
- www.tanabe.co.jp/nanpao/

続ける生薬、
続く元気。
生薬31種の
効き目を、
カプセルに。

A-IIアンタゴニスト

ニューロタン錠50

NU-LOTAN (ロサルタンカリウム錠)〈薬価基準収載〉

指定医薬品・処方せん医薬品：注意 — 医師等の処方せんにより使用すること



BANYU

A subsidiary of Merck & Co., Inc.,
Whitehouse Station, N.J., U.S.A.

製造販売元【資料請求先】

万有製薬株式会社

〒103-8416 東京都中央区日本橋本町2-2-3
ホームページ <http://www.banyu.co.jp/>

本剤のご使用にあたり、【使用上の注意】等詳細については、
製品添付文書をご参照ください。

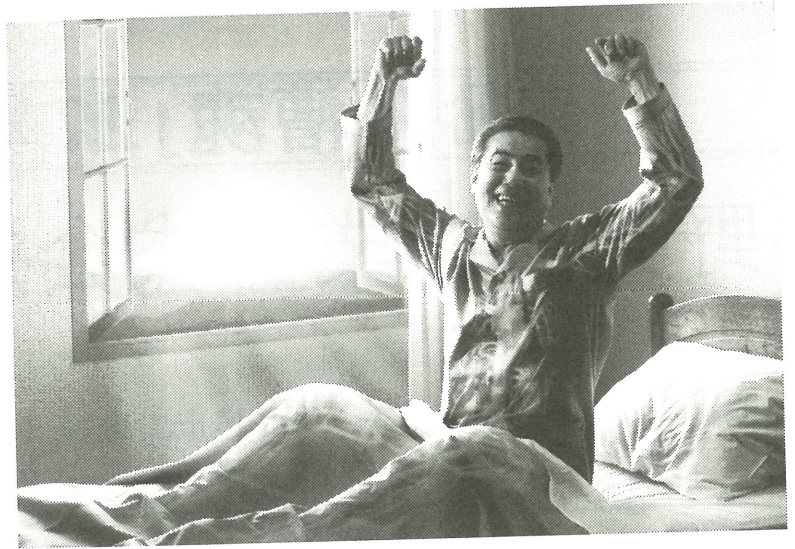
©Trademark of Merck & Co., Inc. Whitehouse Station, N.J., U.S.A.
2005年4月作成 04-10CZR05-J-5A35J



Boehringer
Ingelheim



astellas



胆汁排泄型持続性AT₁受容体ブロッカー(テルミサルタン製剤) 薬価基準収載

ミカルディス[®]錠 20mg 40mg

MICARDIS
TELMISARTAN

指定医薬品、処方せん医薬品(注意—医師等の処方せんにより使用すること)

Micardis[®]

■「効能・効果」「用法・用量」「禁忌を含む使用上の注意」等につきましては、製品添付文書をご参照ください。

発売 **アステラス製薬株式会社**
東京都板橋区蓮根3-17-1
[資料請求先] 本社 / 東京都中央区日本橋本町2-3-11

製造販売 **日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社**
東京都千代田区猿楽町2丁目8番8号
資料請求先: メディカルアフェアーズ部D1センターグループ

05/8作成.B51/2.B.03

祝「漕魂」27号発行

小野薬品工業株式会社

長崎市出島1-14 出島朝日生命青木ビル8F
〒850-0862 ☎ 095-822-8271

三菱ウェルファーマ株式会社

長崎市興善町2-24 長崎第一生命ビル2F
〒850-0032 ☎ 095-832-2000

ゼリア新薬工業株式会社

福岡市博多区東比恵3-4-2
〒812-0007 ☎ 092-411-1241

協和発酵工業株式会社

長崎市西坂町2-3 長崎駅前第一生命ビル6F
〒850-0051 ☎ 095-822-8514

万有製薬株式会社

長崎市興善町4-5 カクヨウBLD6F
〒850-0032 ☎ 095-823-7141

祝「漕魂」27号発行

日本ケミフア株式会社

福岡市博多区住吉3-1-80 オヌキ新博多ビル2F
〒812-0018 ☎ 092-272-1031

バイエル薬品株式会社

長崎市平野町12-11 井手ビル5F
〒852-8117 ☎ 095-841-8250

カネボウ薬品株式会社

長崎市大浦町1-38
カネボウ化粧品九州販売(株)長崎支社2F
〒850-0918 ☎ 095-820-6495

ファイザー株式会社

長崎市中町1-26 住友生命長崎中町ビル8F
〒850-0032 ☎ 095-827-2443

三共株式会社

長崎市出島1-14 出島朝日生命青木ビル7F
〒850-0862 ☎ 095-826-8325

祝 「漕魂」27号発行

中外製薬株式会社

長崎市西坂町2-3 長崎駅前第一生命ビル8F
〒850-0051 ☎ 095-825-4772

日本化薬株式会社

長崎市千歳町21-1 久部ビル2F
〒852-8135 ☎ 095-849-2777

第一製薬株式会社

長崎市西坂町2-3 長崎駅前第一生命ビル2F
〒850-0051 ☎ 095-826-8050

大日本住友製薬株式会社

長崎市馬町24 西日本新聞長崎ビル3F
〒850-0022 ☎ 095-821-8412

エーザイ株式会社

長崎市万才町6-38 明治生命ビル4F
〒850-0033 ☎ 095-827-1131

祝 「漕魂」27号発行

大鵬薬品工業株式会社

長崎市油木町11-5

〒852-8035 ☎ 095-847-2243

他、多数のメーカー様の協賛ありがとうございます

長崎大学医学漕艇部

公式ホームページ

since 2000

http://www.geocities.jp/rowing_choudai/

～ Yahoo で「長崎大学医学漕艇部」で検索できます～

ボート競技と部の紹介、部のイベント、試合の記録などを写真と一緒に載せています。OB専用掲示板もありますので卒業生同士の連絡にもご利用ください。

OB 専用掲示板 URL



<http://6523.teacup.com/tauring/bbs>

編集後記

この度、部誌発行するにあたりまして、OBの先生方から度重なるご指摘にもかかわらず、発行が遅くなりましたことにお詫び申し上げます。

この度、長崎大学医学部漕艇部OB会および村上ゼミ発足30周年記念号として部誌をしっかりと作り直したつもりではありますが、不備のある点もあるかと思えます。どうぞご容赦ください。

我々部員はOBの先生方の応援などご協力があつて始めて活動があつて始めて活動できています。創部当初の時代には、部員みんなでバイトや開業されている先生方のところに寄付をお願いしてまわつて活動していたと伺いますし、いま他の部活はそのようにして活動しています。このように恵まれた環境の下で活動している部活は長崎のボート部以外ではないと思えます。今回この部誌を作成するにあたりまず、OBの先生方に感謝の気持ちを部員一同述べさせていただきます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

編集責任者 村田 慎一